

令和6年度

事業報告書



社会福祉法人永光会

目 次

1. 法人本部		1
2. 永光荘		1 5
3. 清流の郷		4 1
4. 居宅介護支援事業所永光荘		6 7
5. 渋川市古巻地域包括支援センター		7 1

1 . 法人本部

1. はじめに

令和6年度はクラスターには至らないまでも、新型コロナの感染発症者がところどころ見受けられ、常に感染が拡大するのではないかと危機感を持ちながらの一年であった。これまでの感染経験から職員によるマニュアルに基づいた隔離等の対応もスムーズに実施することができているが、この傾向は今後も続くと思われるため、引き続き予防策は講じていきたい。令和6年度の重点取組み事項として施設稼働率の向上およびデイサービスの利用者増を掲げたが、事業所間での実績に差が出たため、法人としては、表1のとおり、事業活動資金収支差額で当初予算から1,600万円ほどの減額補正をお願いする結果となった。特養・ショートステイにおける稼働率の確保とデイサービスの利用者増による財政基盤の確立は、令和7年度の法人事業計画の最重点項目に位置付けて取組んで行く所存である。一方、ここ数年は高額な手数料を払っても人材紹介会社に頼らざるを得ない状況が続き、介護人材の確保は年々難しくなっているが、各方面への働きかけと学校との連携を深めながらコストのかからない人材の確保を進めるとともに、職員の業務負担の軽減と介護サービスの質の向上を目的とした「生産性向上」を通して、職員の定着も図りたい。

令和7年度は永光会中期計画（2023年～2025年）の最終年度であり、本中期計画の仕上げを行いながら、次期中期計画の取りまとめを行いたい。

令和6年度の法人本部事業計画に掲げた重点取組み事項と事業実績等について、概要を以下に記し総括とする。

1) 重点取組み事項

① 介護現場における「生産性向上」

- ・令和6年度介護報酬改定において義務化された生産性向上委員会を永光荘と清流の郷の両施設に設置し、各施設において課題となっているICT化や職員負担の軽減、介護サービスの質の確保等について検討し実施した。

ケアパレットの導入、移乗サポートロボの導入など。

- ・令和3年度から厚労省が導入した科学的介護（LIFE）のデータ入力・提出については、令和6年度になってようやく一部ではあるが、フィードバックが開始された。LIFEが各種加算の条件となっていることから、今後は、このフィードバックされたデータの内容吟味と活用方法の検討を進めていく。

② 人材の確保・定着・育成

- ・専門学校、福祉系高等学校との連携強化の結果、新卒者が2人入職した。

（P6. 表A～B参照）

- ・フレックスタイム制度の導入拡大（新たに永光荘特養介護支援専門員・管理栄養士、地域包括支援センターにおいて採用）
- ・自己啓発セミナーとして倫理法人会モーニングセミナーに参加（課長職以上
令和6年4月～8月）

③ 事業継続計画（感染症・地震・水害等BCP）のPDCAサイクルの実践

- ・地震・災害等BCP関係

R6. 10. 31 永光荘 地震発生を想定した通勤経路・通勤手段確認訓練（関越渋川インター出口が通行不能時のルート検討など）の実施。

R6. 10. 8 清流の郷 水災害発生を想定した施設／職員間の通信訓練（施設の停電作業中を利用したLINE WORKSによる情報伝達訓練）の実施。

・感染症BCP関係

R6. 9. 5 永光荘 ノロ発生時の嘔吐処理シュミレーション（ガウンの離脱着についてなど）

R7. 2. 25 清流の郷 渋川医療センター講師による感染症予防研修（映像による講義と実地訓練）の実施。

④財政基盤の安定化

- ・各施設においてベッド稼働率の向上、利用者数の増加に向けて取組んできたが、法人全体として事業活動収入は下表1のとおり、大幅な予算減額となった。ここ数年特に、デイサービスの利用者数の落ち込みが大きいところから、経営的な財政基盤にも影響がでてきているため、令和7年度は最重点項目として立て直しを図りたい。

表1 令和6年度 法人合算資金収支総括表 (単位：千円)

		決算額 (A)	補正後予算額 (B)		当初予算額 (C)	
				(A-B)		(A-C)
	事業活動収入 (a)	904,500	901,374	3,126	935,800	△31,300
	事業活動支出 (b)	881,782	892,256	△10,474	910,237	△28,455
①事業活動資金収支差額 (a-b)		22,718	9,118	13,600	25,563	△2,845
②施設整備等資金収支差額		△10,878	△12,503	1,625	△12,428	1,550
	その他の活動収入 (c)	151,280	495	150,785	495	150,785
	その他の活動支出 (d)	151,532	791	150,741	16,524	135,008
③その他活動収支差額 (c-d)		△252	△296	44	△16,029	15,777
当期資金収支差額 (①+②+③)		11,588	△3,681	15,269	△2,894	14,482

表2	当期資金収支差額の推移表				
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
金額 (千円)	4,982	△62,961	△13,926	※11,588	(△12,144)

※令和6年度は15,000の建設積立資産支出はなし

() は予算

表 3

各事業の介護保険収入等

(単位：千円)

各事業 \ 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
永光荘特養	363,436	359,943	352,067	366,292	366,084
永光荘ショートステイ	41,662	43,810	43,535	43,512	48,099
永光荘デイサービス	80,939	81,185	77,955	70,382	62,980
清流の郷特養	247,999	250,615	253,425	255,889	260,011
清流の郷ショートステイ	25,646	26,073	44,574	42,920	42,269
清流の郷デイサービス	81,993	82,474	70,896	62,896	78,849
居宅介護支援事業所永光荘	14,995	16,505	15,854	20,124	22,565
地域包括支援センター(※)	21,024	21,283	21,123	20,987	21,301
合計	877,694	881,888	879,429	883,002	902,158

※指定介護予防支援事業所を含む。上記表 1～3 に記載する令和 6 年度の数値は決算理事会報告時のもの

2. 評議員会及び理事会等の運営

令和 6 年度は、評議員会 3 回、理事会 4 回、監事監査 1 回を開催し、各事業の円滑な執行に努めた。

1) 評議員会の運営状況

通算回数	実施日	評議員出席/定数	監事出席/定数
① 通算第 79 回	R6. 6. 14	9/9	2/2
② " 80 回	R6. 12. 6	8/9	1/2
③ " 81 回	R7. 3. 21	9/9	2/2

※議題、結果については、表 4 に示す。

2) 理事会の運営状況

通算回数	実施日	理事出席/定数	監事出席/定数
① 通算第 176 回	R6. 4. 1	開催省略	
② " 177 回	R6. 5. 23	8/8	2/2
③ " 178 回	R6. 6. 10	開催省略	
④ " 179 回	R6. 11. 22	7/8	2/2
⑤ " 180 回	R7. 3. 7	7/8	1/2

※議題、結果については、表 5 に示す。

3) 監事監査の実施状況

実施日：令和 6 年 5 月 10 日（金）

実施内容：令和 5 年度会計執行状況及び法人・施設運営状況

結果報告：第 177 回理事会及び第 79 回評議員会にて報告

4) 法人運営会議（業務執行理事会）の開催状況
会議内容については表6に示す。

5) 法人行動指針に沿った具体的な取組み

①法人組織統治の強化

A) 理事の選任

R6. 4. 1 第176回理事会にて藤井功一を業務執行理事に選任

B) 評議員選任・解任委員会委員の選任

R6. 6. 10 第178回理事会にて委員4人選任（重任）

C) 基本理念、行動指針、倫理綱領等の職員への教育

R6. 4. 1 永光会新規入社職員研修にて基本理念等を説明。社内SNSのLINE WORKSにて全職員に周知

D) 規程の改訂 就業規則1回 給与規程2回 安全衛生管理規程1回 育児・介護休業などに関する規則1回 運営規程2回

②コンプライアンスの徹底

- ・コンプライアンス推進体制（永光荘等）の見直し。
- ・永光会ハラスメント防止指針の改訂（R7.3.1）内容・相談窓口の見直し。

③安心・安全な環境整備

- ・永光荘 屋上屋根補修、全居室コンセントボックス修理、誘導灯更新等
- ・清流の郷 LPガスバルクタンク更新、エアコン修理等。
- ・SDGsについては年度目標を定め、法人全体で取り組んだ。

④地域共生社会の推進

- ・渋川市地域包括支援センターの第3期目（令和6年度～8年度）の委託事業が開始した。認知症や高齢者虐待などの異変をいち早く発見・対応するために古巻地域包括支援センターが発足時より取り組んでいる「渋川市高齢者等あんしん見守りネットワーク」の協力事業者も40件を超えるまでとなり、地域の高齢者に関する相談窓口として浸透している。
- ・居宅介護支援事業所永光荘は、令和6年12月から常勤職員4人及びパート職員1人による体制となり、特定事業所加算ⅢからⅡへと報酬単価がアップする上位の加算を取得することができたとともに、常勤職員増によるケアプラン作成数の増加に結び付いたが、収支が改善するところまでは至らなかった。
- ・福祉有償運送実績 令和6年度43件（令和5年度17件）

⑤地域の信頼を得るための積極的な活動

- ・厚生労働省の財務諸表等電子開示システムを通じ法人概要、財務諸表及び地域における公益的な取組等を公開。
- ・広報紙「永光会たより」 4回発行（各1,300部）
- ・見やすさの向上や採用情報の充実化などを図るため、法人ホームページの改修を行い、スマホにも対応させた。

⑥人材確保と定着に向けた取組み

- ・居宅介護支援事業所永光荘でフレックスタイム制度を正式導入した。
- ・介護福祉士養成校等の就職説明会への参加
- ・留学生アルバイト雇用及び奨学金受給に係る保証人（外国人対策）新規4人
- ・施設内・外研修への参加、委員会活動の活性化（詳細は各事業報告）

表 A 新卒者採用状況

年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
(人)	2	2	2	3 (予定)

表 B 外国籍職員採用状況（上記のうち）

年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
(人)	1	1	2	2 (予定)

表 C 新卒以外の中途採用者の状況（パート含む）

年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
(人)	1 9	1 5	1 9

表 D 離職率の状況

年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
(%)	1 2 . 0	9 . 8	1 0 . 5

＊職員離職率は全国水準（目標 1 5 %）を下回っている。

表 E 事業所別採用・退職実績 (人)

事業所	職 種	採 用	退 職
永光荘 特養	介護 (常勤)	7	6
〃 〃	介護 (非常勤)	4	3
〃 〃	看護 (常勤)	1	1
〃 〃	用務 (常勤)		1
〃 〃	用務 (非常勤)	2	
〃 デイ	看護 (非常勤)		1
清流の郷特養	介護 (常勤)	2	1
〃 〃	介護 (非常勤)		2
〃 ショート	介護 (常勤)	1	
古巻地域包括	看護 (常勤)	1	1
合 計		1 8	1 6

表 4

評議員会の運営状況

通算 回数	議題・結果
79	* 令和5年度事業報告 (①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘(管理部、特養部、居宅ケア部(永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)③特別養護老人ホーム清流の郷(管理部、特養部(特別養護老人ホーム、ショートステイ)、デイサービス部)④居宅介護支援事業所永光荘 ⑤地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所) について <承認> * 令和5年度決算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)⑤本部会計) について <承認> * 監事による監査報告
80	* 令和6年度1次補正予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター(指定介護予防支援事業所)⑤本部会計) について <承認>
81	* 令和6年度2次補正予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)⑤本部会計) について <承認> * 令和7年度事業計画(案) (①法人本部②永光荘(管理部、特養部、居宅ケア部)③清流の郷(管理部、特養部、デイサービス部)④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)) について <承認> * 令和7年度予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)⑤本部会計) について <承認>

表 5

理事会の運営状況

通算 回数	議題・結果
176	* 業務執行理事の選任について <承認>
177	* 令和5年度事業報告（案）（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部（永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部（特別養護老人ホーム、ショートステイ）、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤渋川市古巻地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について <承認> * 令和5年度決算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘、④渋川市古巻地域包括支援センター（渋川市地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）⑤本部会計）について <承認> * 監事による監査報告 * 社会福祉法人永光会諸規程の改訂（①給与規程②運営規程（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター、特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）について <承認> * 社会福祉法人永光会定時評議員会の開催について <承認> * 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告） * 寄付の報告について（報告）
178	* 社会福祉法人永光会評議員選任・解任委員会委員の選任について <承認>
179	* 令和6年度1次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）、②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）、③居宅介護支援事業所永光荘、④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）⑤本務会計）について <承認> * 社会福祉法人永光会就業規則別表等の変更の場合の理事長専決について <承認> * 社会福祉法人永光会諸規程の変更（①給与規程②育児・介護休業などに関する規則）について <承認> * 社会福祉法人永光会評議員会の開催について <承認> * 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）
180	* 令和6年度2次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）、②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）、③居宅介護支援事業所永光荘、④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）、⑤本部会計）について <承認>

* 社会福祉法人永光会運営規程の一部変更について <承認> * 令和7年度事業計画（案）（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について <承認> * 令和7年度予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）⑤本部会計）について <承認> * 社会福祉法人永光会諸規程の変更（①運営規程（永光荘デイサービスセンター、清流の郷デイサービスセンター）②安全衛生管理規程）について <承認> * 社会福祉法人永光会評議員会の開催について <承認>	
--	--

表6 法人委員会・会議関連

会議・委員会名	会議内容	実施回数
法人運営会議	BCPの検討・作成 中期計画の見直し 策定、新型コロナウイルス感染症対策、 その他各事業所に関する諸課題の検討 ・令和6年4月1日 拡大運営会議 令和6年度の体制・取組み ・令和6年9月30日 拡大運営会議 令和6年度下期に向けての取組み	17回
広報委員会	ホームページリニューアルのための試 作・検討・校正作業（R6.12完成） 広報誌「永光会たより」の企画・検討・ 発行	8回

5. 沿革

1986（昭和61）年	6月18日	社会福祉法人永光会 法人認可 初代理事長に真下玄永就任
	7月2日	社会福祉法人永光会 法人成立
1987（昭和62）年	4月1日	特別養護老人ホーム永光荘開設（定員50人） 短期入所（定員6人） 初代永光荘施設長に飯塚春雄就任
1989（平成元）年	2月1日	渋川デイサービスセンター開所（渋川市委託事業） 永光荘40人増員（定員90人）
	6月30日	永光荘施設長 飯塚春雄退任
	7月1日	2代永光荘施設長に真下誠治就任
1991（平成3）年	8月20日	機関紙「永光会たより」創刊
1992（平成4）年	4月1日	真下施設長 群馬県デイサービスセンター連絡協議会 初代会長に就任（～H10.3.31）
1993（平成5）年	4月8日	初代理事長真下玄永逝去
	9月22日	2代理事長に梅澤次郎就任
1994（平成6）年	1月17日	渋川デイサービスセンター長時間利用開始
	3月30日	渋川デイサービス開所5周年記念事業 ボランティア 体験教室感想文集「またくるね」発行
	7月1日	渋川在宅介護支援センター永光荘開設（渋川市委託事業） 永光荘ホームヘルプサービス事業開始（渋川市委託事業）
1995（平成7）年	2月1日	老人短期入所定員変更6名増員（定員12人）
	11月14日	群馬県サービス評価委員会の評価受査
1997（平成9）年	4月1日	デイサービス名称変更「永光荘デイサービスセンター」
	7月19日	永光荘開所10周年記念式典開催
1998（平成10）年	4月1日	永光荘デイサービスセンターE型開所（定員10人）
1999（平成11）年	2月24日	永光荘デイサービスセンター10周年記念式典開催
	8月2日	福祉オンブズマン「はあとらんど」契約締結
	11月1日	在宅介護支援センター永光荘、県指定居宅介護支援事業者認可
	12月31日	永光荘施設長 真下誠治退任
2000（平成12）年	1月1日	3代永光荘施設長に梅澤良三就任
	3月10日	特別養護老人ホーム永光荘（定員90人）、県指定介護老人福祉施設認可 永光荘ショートステイ（定員9人）、県指定居宅サービス事業者認可 永光荘デイサービスセンター（定員35人）認可 永光荘デイサービスセンターE型（定員10人）認可 永光荘ホームヘルプステーション認可
2000（平成12）年	5月31日	理事長 梅澤次郎退任
	6月1日	3代理事長に真下誠治就任
2001（平成13）年	11月22日	評議員会設置

2002（平成14）年	1月31日	2代理事長梅澤次郎逝去
2003（平成15）年	3月31日	永光荘デイサービスセンターE型廃止
	4月1日	永光荘デイサービスセンターE型を永光荘デイサービスセンターへ統合（定員45人）
	9月1日	永光荘デイサービスセンター定員5人増員（50人）
2006（平成18）年	4月1日	介護予防事業開始（短期入所生活介護、通所介護 訪問介護）
2007（平成19）年	12月19日	渋川市特別養護老人ホーム清流の郷指定管理者に指定（平成20年4月1日運営開始）
2008（平成20）年	4月1日	渋川市特別養護老人ホーム清流の郷運営開始（定員：特養50人、ショート6人、デイサービス25人） 初代清流の郷施設長に村上忠明就任 特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショーツステイ、永光荘デイサービスセンター、在宅介護支援センター永光荘及び永光荘ホームヘルパーステーションの県指定の更新（6年間）
2010（平成22）年	2月28日	永光荘ホームヘルパーステーション廃止 多機能型居宅ケアグループとして統合（永光荘ショーツステイ・永光荘デイサービスセンター在宅介護支援センター永光荘）
2011（平成23）年	12月22日	優良民間社会福祉事業施設として天皇陛下より御下賜金拝受
2012（平成24）年	12月19日	渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理者受託（運営期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日）
2013（平成25）年	3月31日	永光荘施設長 梅澤良三退任
	4月1日	4代永光荘施設長に菊地文夫就任 多機能型居宅ケアグループを廃止し、永光荘を管理部・特養部・居宅ケア部に編成。居宅介護支援部の中に居宅介護支援事業所永光荘と渋川市在宅介護支援センター永光荘を設置
2014（平成26）年	3月31日	渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理終了 居宅介護支援事業所清流の郷休止
	4月1日	渋川市より永光会へ特別養護老人ホーム清流の郷を譲渡
	7月10日	渋川市と「災害時における要援護者の受入れに関する協定書」を締結
2015（平成27）年	9月24日	特別養護老人ホーム清流の郷 喀痰吸引等登録研修機関の登録
	9月30日	居宅介護支援事業所清流の郷廃止
2016（平成28）年	2月4日	社会福祉法人永光会 自家用有償旅客運送者登録（福祉有償運送）
2016（平成28）年	10月27日	特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価

			受審（サービス評価センターはあとらんど）
2016（平成28）年	1月30日		永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2017（平成29）年	2月9日		社会福祉法人永光会評議員選任・解任委員会設置
2017（平成29）年	3月31日		永光荘施設長 菊地文夫退任
			清流の郷施設長 村上忠明退任
	4月1日		5代永光荘施設長に村上忠明就任
			2代清流の郷施設長に大谷義隆就任
	7月12日		永光会創立30周年記念式典開催
	11月9日		特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
	12月1日		渋川市古巻地域包括支援センター運営業務受託（運営期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日）
	12月7日		清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2018（平成30）年	2月23日		渋川市古巻地域包括支援センター 指定介護予防支援事業所指定（平成30年4月1日事業開始）
	3月14日		永光荘デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
	29日		清流の郷デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
	31日		渋川市在宅介護支援センター永光荘廃止 居宅介護支援事業所永光荘に名称変更4／1～
2018（平成30）年	4月1日		渋川市古巻地域包括支援センター運営開始 永光荘ショートステイ介護予防短期入所生活介護の県指定の更新（2年間）
2020（令和2）年	1月14日		特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ（介護予防含む）、特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ指定通知（指定年月日：令和2年4月1日）
	2月19日		居宅介護支援事業所永光荘指定通知（指定年月日：令和2年4月1日）
	3月2日		永光荘デイサービスセンター、清流の郷デイサービスセンター指定通知（指定年月日：令和2年4月1日）
	8月7日		渋川市古巻地域包括支援センター運営委託第2期（令和3年度～5年度）受託内定
2021（令和3）年	4月1日		渋川市古巻地域包括支援センター第2期運営委託開始
	12月15日		特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2022（令和4）年	1月17日		永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
	12月19日		特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評

2023（令和 5）年	2月21日	価受審（サービス評価センターはあとらんど） 清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者 評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
2024（令和 6）年	3月31日	永光荘施設長 村上忠明退任
	4月 1日	永光荘施設長 藤井功一就任 渋川市古巻地域包括支援センター第3期運営委託開始 （令和6年度～令和8年度） 永光荘デイサービスセンター介護予防通所介護相当サ ービス（渋川市（2年間）、吉岡町・榛東村（6年 間））、清流の郷デイサービスセンター介護予防通所介 護相当サービス（渋川市（2年間））の更新 渋川市古巻地域包括支援センター指定介護予防支援指 定通知（6年間）

2. 特別養護老人ホーム永光荘

管理部

特養部

居宅ケア部

1. はじめに(総括)

令和6年度は『転換点を意識し、大きく踏み出そう!』を施設方針に掲げ、事業運営を行った。その転換点である介護保険制度改正、特に生産性の向上を中心に「利用者処遇の質の向上」と「働きやすい職場環境整備」を柱に取組みを行った。

しかし、コロナ禍から続く特養部のベッド稼働率とデイサービスの利用者確保の低迷からの回復は難しく、満足な結果とはならなかった。その主な要因として、特養部については、令和4年度の大規模クラスターによる空床を早期に埋めるべく、病院を中心に医療依存度が高く終末期に近い方を多く受入れたことで、在所期間が短くなり、退居に対して入居受入が追いつけなかったことが大きいと考えられる。その空床を埋めるべくショートステイ利用者を受入れたが、特養・ショートステイ合算の目標達成までには至らなかった。デイサービスについては、利用者獲得のため、エリア拡大と合わせ永光荘デイサービスのストロングポイントである365日開館と居宅介護支援、ショートステイ、特養の併設による総合支援体制等を再認識してもらうため、改めて周知活動を行ったが、徐々に効果は現れているものの目標には及ばなかった。居宅介護支援については、令和7年1月から常勤職員4人(パート職員1人)体制とし、上位加算を取得するとともに相談受入れをより柔軟に迅速に対応できるよう整備した。地域包括支援センターについては引き続き渋川市からの委託により、古巻地区の高齢者が安全に安心して生活できるように様々な取組みや総合相談支援、介護支援専門員への助言・支援を行った。

また、デイサービスに対し群馬県による運営指導があり、1件の指摘(個人情報使用の同意書の改善)を受けたが、サービス提供全般に対して適正に運用されているとの確認を受けた。

その他、令和6年度運営方針の取組み結果については、以下のとおりである。

(1) サービスの質の向上を常に図る

- ① L I F E の活用については、予定通り厚生労働省の新システムへの移行はされたが、個別ケアやサービスの向上に対する具体的な活用までは至らず、活用方法の検討を行う段階にとどまった。
- ② 人材育成については、令和6年度介護保険制度改正により義務化された研修や委員会活動の実施、その他外部研修にも積極的に参加し知識や技術のブラッシュアップを行い、職員のモチベーションアップと利用者に対するサービスの質の向上に取り組んだ。
- ③ I C T の促進については、タブレットやノート型パソコンを使用し、既存のシステムを有効活用するため、業者に依頼し内部研修を実施したことで現場職員の I C T 活用スキルと意欲が向上し、記録業務の効率化と情報共有とデータ活用が促進した。
また、L I N E W O R K S の活用について、法人、施設、事業所、各部署、委員会等のトークルームを整理し、より使いやすい仕組み作りを進めている。
- ④ 介護ロボットの検討・導入について、「眠り S C A N」を本格的に導入し使用を開始したが、機能やデータ活用に関しては十分には行えていない。個別ケアや職員の負担軽減に有効に活用できるよう検証と実践を継続していく。
- ⑤ 感染症・地震に対する事業継続計画の P D C A サイクルの実践について、令和6年介護

保険制度改正において、それぞれのBCPに基づく研修・訓練と見直しが義務化され、基準に基づき実施した。

- ⑥SDGsの取組み確認と推進については、例年通り「NPO法人世界の子どもにワクチンを」ペットボトルキャップによる寄付と日本財団チャリティー自販機寄付を継続し、日本財団へ95,390円を寄付した。

(2) 財政基盤の安定への取組み(表13～21参照)

- ①特養部：ベッド稼働率 91.3% (目標：94.0%)

＊特養部・ショートステイ 合算ベッド稼働率 94.2% (目標：96.0%)

特養部は退居者が年間39人(一月平均3.3人)で、その内の約7割が施設での看取りとなり、現場の負担は大きかった。その空床の穴を埋めるべく、目標以上のショートステイ利用者の受入れを行ったが目標には至らなかった。

②居宅ケア部：

＊ショートステイ 11.1人/日 (目標：10.5人/日)

＊デイサービスセンター

介護：年間5,315人 (目標：6,258人)

予防：実利用者数、年間106人 (目標：96人)

ショートステイは、定員9人のところ、特養と空床状況の情報共有を行い、目標以上の受入れを達成できた。デイサービスは介護については目標を大きく下回ったが、予防については目標を上回った。

なお、対策の詳細については、各部の報告書を参照されたい。

- (3) 地域における公益的な取組みについてだが、新型コロナの5類移行から約1年が経過したこともあり「永光荘カフェ」の再開を検討したが、対象者及び受入れ側として、感染した場合の重症化リスクが懸念されるため、見合わせとした。また、渋川市古巻地域包括支援センターを中心に古巻地区の高齢者が安心してその人らしく生活できるよう地域ニーズに対し包括的支援事業をおこなった。

2. 管理部

【年度目標①】令和6年度の介護保険制度改定の内容を理解し、健全な経営に結び付ける。

(評 価) 令和6年度の介護保険制度改定により3年間の猶予期間後に設置が義務付けられた「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保および職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会（いわゆる生産性向上委員会）」については、新設加算「生産性向上推進体制加算」取得の条件となっているため、今年度より委員会を開催した。また、職員の待遇改善として取得していた処遇改善関係の3加算（処遇改善加算、特定処遇改善加算、およびベースアップ等支援加算）が「介護職員等処遇改善加算」として一本化され、同時に加算率も引き上げられた。更なる職員待遇改善のため、最上位の加算（Ⅰ）を取得し、待遇改善に資することとなった。

【年度目標②】施設整備・備品等の老朽化や生産性向上の一つであるICT化促進を念頭に、利用者への安定したサービス提供と職場環境の改善を進めるため、計画的にメリハリある修繕や更新を実施する。

(評 価) 業者による建物・敷地点検結果に基づき、屋根の防水対策を実施したほか、以前より懸念されていた東側擁壁の傾きについてボーリング調査を行い、急な崩壊の可能性は低いことが判明した（引き続き地面の歪みは継続して測定）。また、老朽化した機械浴槽についてはJKA（旧日本自転車振興会）、デイサービスの車両は中央馬主社会福祉財団からの補助金を検討し、そのうち中央馬主福祉財団からの補助金の交付が決定し、車両の更新をすることができた。機械浴槽は仕様も含めて引き続き検討することとなった。ICT化の促進については、現場の職員用にタブレットを購入し、記録時間の短縮など業務負担の軽減に結び付いた。

1) 総務課・用務課

(1) 総務係

【年度目標①】フレックスタイム制度の適用部署を拡大するとともに、適用部署の効率的運用を補助し、時間外労働の削減を図る。

(評 価) 管理部から導入後、居宅介護支援事業所へ展開し、令和6年度は特養部介護支援専門員、管理栄養士、地域包括支援センターへ導入範囲を拡大した。新たに導入した部署に対しては運用支援を行い、柔軟な働き方の実践を促進したことで、ライフワークバランスの向上とともに時間外労働の削減にもつなげた。

【年度目標②】施設全体の年次有給休暇取得率の向上を目指す。

(評 価) 年間5日の年次有給休暇取得義務化が職員に浸透し、令和6年度の有給休暇平均取得率は85.2%に達した。

(2) 経理係

【年度目標①】会計処理等においてミスゼロにするためのチェック方法の確立。

(評 価) 令和6年度には、取引業者への支払いや事業所間の振替業務に関わる担当

者の見直しを行い、ミス防止のための管理体制を整備した。
しかし、請求書回覧における不手際が複数回発生したことから、令和7年度も引き続き重要課題として捉え、年度目標に掲げた。

【年度目標②】タイムリーな未収金管理を行い滞納件数・金額を減少させ安定した財政基盤の一助を担う。

(評 価) 滞納者に関する情報は、個別に各相談員等へ適切に提供することで、解決に至ったケースも見られた。ただし、新たな問題も発生していることから、今後も迅速な情報提供を継続し、関係職員と連携しながら対応に努めていく。

3) 用務課

【年度目標①】設備・機器の環境を適切にサポートし、利用者の日々の暮らしに寄与。業者による建物設備調査の結果を参考に建物設備の保守・修繕を実施。

(評 価) 用務課職員の入替えに伴い、各種マニュアルの見直し・整備を行い、新任職員への円滑な業務引継ぎを実施した。また、施設管理の一環として雨漏り対策を講じ、屋根および施設内の必要箇所にコーキング処理を実施した。

【年度目標②】デマンド上限129kwhを目標とし、適切な電気使用による省エネ推進。

(評 価) 入居者にとって適切な生活環境の維持に努めたうえで目標を達成することができた。

4) 職員健康診断等状況

1. 健康診断状況

令和6年 6月18日～8月22日 73人(全体職員検診)

令和6年12月 2日～令和7年2月 4日 31人(夜勤職員検診)

2. インフルエンザ予防接種状況

令和6年10月22日～11月16日 78人接種

3. ストレスチェック実施状況

令和6年11月24日～30日 66人受検

5) 施設不在者投票(特別養護老人ホーム利用者)

1. 第50回衆議院議員総選挙及び第26回最高裁判所裁判官国民審査

令和6年10月24日 30人投票

3. 特養部

【年度目標①】 94.0%以上のベッド稼働率を維持する。

(評 価) 令和6年4月に89.0%でスタートし、月に2人から5人の新規受け入れを行ってきたが退居者も同数あり令和7年3月に94.1%となったものの年度累計91.3%と目標の達成には至らなかった。待機者の減少がみられ入居検討の余地がない状況が続き、重度または医療依存度の高い入居希望者を受け入れていることで入退居の循環が生じている。今後はこれを想定内とし退居から次の入居までの期間をなるべく短くし、部内職員の対応力向上を図っていききたい。

【年度目標②】 人材確保と定着。

(評 価) 介護職員の入退職が主に年度前半に重なり厳しい業務体制が続いたが入職職員の育成は順調に進めることができ、年度後半ではほぼ安定した。各職員の勤務上の希望を柔軟に受け付け、公平でバランスの良い勤務表の作成を意識的に行った。また、介護支援専門員・管理栄養士の勤務にフレックスタイム制度を導入し、男性介護職員1人の1ヶ月の育児休暇にも対応した。

【年度目標③】 チームケアの質の向上。

(評 価) 特養部全体会議でのグループワークを引き続き実施し、業種を越えてお互いの価値観や考えを理解し合えるよう働きかけた。排泄委員会では年度を通じて各入居者の尿測を継続して行い、個別の排泄表を作成している。リハビリ委員会では毎週木曜日来荘の理学療法士指導のもと、作成されたリハビリプログラムの実施を毎日午前中に継続して提供した。感染症予防委員会では感染症の施設内発生から経験したことをもとにマニュアルの見直しを行った。

【年度目標④】 情報共有の効率化を図る。

(評 価) 11月からケアパレットの打ち込み試行期間とし1月より食事・水分量の入力を開始した。これまでは入居者個別の摂取量をひと月ごとにデータ化し検討資料としていたが、集計作業が格段に簡略され職員の負担軽減につながった。令和7年度目標にも取り掛かっておりバイタル入力や褥瘡の把握にも利用を開始した。眠りSCANを効率的に活用できているとは言えない状況ではあるが状態に応じて対象者を変更し心肺の確認や事故防止につなげた。また、睡眠状態のデータを処遇検討に利用した。

1) 介護課

【年度目標①】 看取りなど重介護者への適切なケアを提供する。

(評 価) 喀痰吸引研修は感染症発生に伴い実施することができなかった。また、エンディングノートもデリケートな部分に踏み込む取組みでもあり当初の計画よりも進みが遅くなってしまった。

利用者の状態に変化が観られた時や看取りの判断が下された際は速やかにサービス担当者会議を開催し個々の処遇を検討・実施することができた。また、各会議でも重介護の入居者へのケアを無理することなく、快適に提供するために職員間の連携や業務の効率化の検討を行い、実施の機会を確保して持続可能なものにした。

【年度目標②】 介護職員（介護補助員含む）の確保と定着。

(評 価) 1日の介護業務の表を作成しアルバイトも含む職員の役割分担を明確にした。

また、課長・係長のほかに当日リーダーを配置し職員の病欠や感染症が施設内に発生した場合に職員配置や勤務変更等の調整がスムーズに行えるように日頃から訓練することができた。

個人面談は感染症対応や職員の病欠等により業務が安定せず実施できなかった。

【年度目標③】 「ほのぼのケアシステム」の定着と習慣化。

(評 価) 特養部年度目標④参照。

2) 看護課

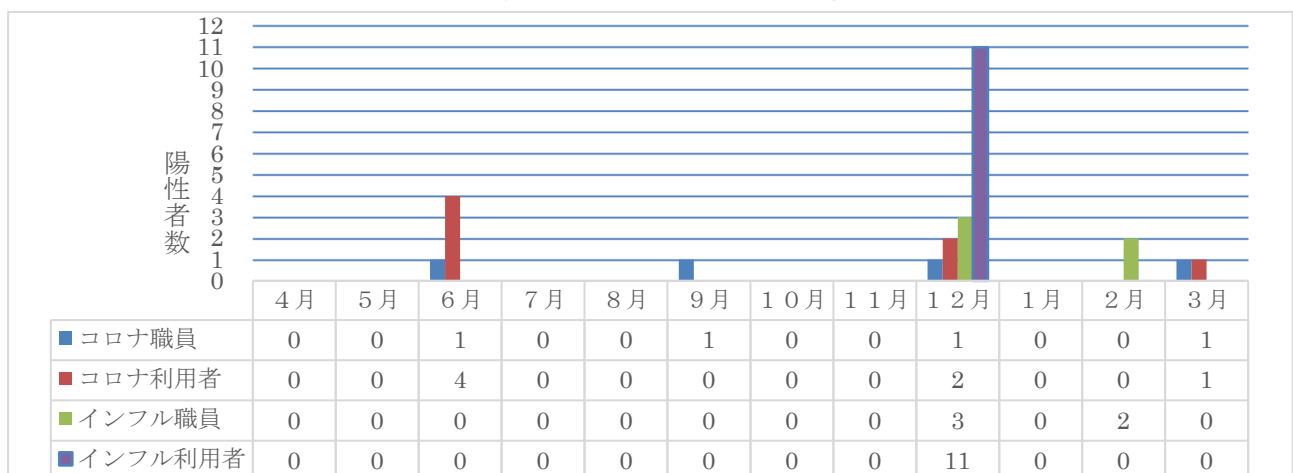
【年度目標①】 健康管理と感染症対策の徹底。

(評 価) 表に示す通り感染症が発生した。過去2回の新型コロナクラスターの対応時の経験と反省に基づき、隔離対象を限定し隔離期間を明確にして、入居者の施設生活を極力制限のないように対応することで、活動量の低下と廃用を予防した。

ウイルスの弱毒化もあると思うが、各職員の感染症対応技術の向上がみられ感染拡大を防ぐことができた。

令和6年度 永光荘特養部感染症感染状況

(人)



【年度目標②】看取り等重介護者の対応。

（評 価）特養部全体会議にて看護職員による「バルーンカテーテルの取り扱い」の内部研修を行った。介護職員への喀痰吸引研修は職員の不足と上記の感染症発生により実施の際の感染リスクを警戒し未達成となった。

3) 栄養課

【年度目標①】入居者のQOL向上のため、栄養面での支援を行う。

（評 価）主にサービス担当者会議にて食事摂取量の低下や嚥下機能の低下が観られる利用者に対して補食での栄養補給の検討と取り決めを先験的に行った。管理栄養士として積極的に入居者と話す機会を増やし食事を楽しみにしている入居者が多いことを再認識した。

【年度目標②】災害・感染症BCPに対する備えを準備し、発生時迅速に対応する。

（評 価）永光荘BCPに基づき災害時の備蓄食品の管理を関連業者と協力して実施している。また、消費期限が近くなった備蓄食品は通常の献立に組み込み提供（ローリングストック）し食品を無駄にしない工夫を行った。

【年度目標③】衛生管理の徹底を図る（食中毒・感染症予防）。

（評 価）衛生記録簿や検収記録簿は関連業者と連携しマニュアルに沿って記録した。食中毒や感染症予防についても、衛生管理マニュアルに沿って徹底を図った。

4) リスクマネジメント

リスクマネジメント委員会にて月単位で事故報告書を通じて再発防止策が適切であったかも含め検討を行った。そこで決められた対応策を発信し、留意点をベッドサークルに貼り周知・徹底を図った。またヒヤリハット報告書も月単位でまとめ検討議題として取り上げ入居者の心身の変化や業務上の盲点の発見等、事故を未然に防げるように努めた。

センサーの使用者の見直しも同時に行い使用者のベッド環境の整理や入居者の意思の尊重、センサー頻回による職員の負担増加についてセンサーの機能も含め検討している。

5) オンブズマン報告

新型コロナは第5類に移行しているが、施設として感染予防に努めているため、閉鎖的な状況は続いた。入居者の要望の聞き取り及び苦情解決システムの一環としてNPO法人「はあとらんど」にオンブズマンを依頼し、処遇改善につなげた。3人体制のため、より多くの視点からの巡回となった。オンブズマンとしての知識と経験から気づいた点を巡回終了後に伺い話し合い、後日書面で報告を受け、各部署で内容確認し、検討・解決を図った。

4. 居宅ケア部

【年度目標①】月のショートステイ、デイサービス登録者数70人以上を目指す。

(評 価) 4月は71人でのスタートとなったが3月には86人の実績を残す事が出来た。実利用者数の増加に向けた取組として、各職員の固定していた役割を状況に合わせ柔軟な対応に変更したことで送迎を多方面に広げることができ、新規受入れ数の増加に繋がられた。また個別処遇への取組を強化したことで、利用回数の少ない方の受入れも戸惑いなく行うことができた。

- ①各ご利用者のニーズに合わせた情報発信⇒指示⇒共有の流れが整えた。
(職制を活かした情報共有のための体制が構築できた)。
- ②実効性を意識し自立支援、重度化防止支援として各課、委員会で定期的に振り返りを行い実践に繋がれた。

【年度目標②】業務の効率化と職員の働きやすさの追求。

(評 価) 偏りのある多忙時間帯・業務改善への取り組みとして会議を通し、意見を出し合う場を設けた。協議の場を密に設ける形をとったことで、新しい様々な対策も積極的に取り入れ働きやすい形づくりに取組めた。

- ①ケアパレット導入による記録物の削減。
- ②日々の業務役割を明確化したことで効率を上げることができた。
- ③送迎表の作成について意見を出し合い、特定の職員への負担軽減に繋げることができた。また、職員の運転練習を行ったことで運転できる車輛の幅を広げることができた。

【年度目標③】感染症予防対策～家族との連携強化。

(評 価) ご利用者本人又は家族の体調不良の情報を受け、看護課を中心に速やかな判断のもと、多職種連携により冷静な対応を行うことができた。
年末年始の感染症陽性者に関しては医療機関の受入れ体制が厳しく、独居の方は特に速やかな受診へと繋がらず職員の不安と負担が大きかった。

1) ショートステイ

【年度目標①】ベッド稼働率117%（1日10.5人）以上を目指す。

(評 価) ベッド稼働率123.5%（1日/11.1人）

特養部と日々情報を共有し、キャンセル待ちの受け入れが出来た事で上半期は目標数を確保できたが、11月以降は体調不良者等でのキャンセルが多く予定数が大きく減少した。特に感染症の蔓延した年末年始は逼迫した状況になったが、過去の経験から看護課中心に対策を行い乗り切る事が出来て職員の成長が感じられた。

特養部への感染を回避するためR5年度同様に家族へ同意の下、別棟のデイフロアでの夜間対応を行い特養部への感染を抑える事ができた。

【年度目標②】安全で安心して過ごせる環境の整備。

(評 価) 上半期はご利用者の出入りが多く職員への負担が偏る勤務状況となったが他勤務者のフォローがあり整った環境を提供する事が出来た。自宅環境に合わせる事を基本とする中、より良い案を出し合うことが出来、ケアマネジャーやご家族へ報告し見直すきっかけが図れた。

2) デイサービス

【年度目標①】年間延べ利用者数 6, 258 人を目指す。

(評 価) 年間実績利用者数は 5, 315 人で目標達成率は 84.9%にとどまり目標を下回った。居宅介護支援事業所への働きかけと吉岡地区からの受入れも行い、新規利用者は月平均で 3.6 人確保はできたが、休止や終了者が相次ぎ利用者数の増加には繋がらなかった。高齢者世帯、独居世帯が大部分を占め、ケガや病気で入院することで状態が低下し、在宅生活が厳しくなるケースが多くみられた。なお、要支援利用者の実人数が前年度比で 1.6 倍となった。また、要介護 1・2 の利用者も増加した。今後、要支援の方も含めて幅広い利用者獲得に努めていく。

【年度目標②】「リハビリ強化」利用者が身体を動かす機会を増やす。

(評 価) 午前中にトレーニングマシンや歩行訓練、音楽療法など自主的なリハビリメニューを行い「リハビリ強化」に取り組んだ。職員の意識づけも徐々に定着し、担当職員が積極的に働きかけを行い自主的に運動に取り組む利用者を増やすことができた。引き続き計画に基づいたリハビリの強化を継続していきたい。

【年度目標③】介護・看護のチームとして生産性を向上し成果を上げる。

(評 価) ADL 向上委員会（食事・排泄・入浴）及び感染症、車両の各係が分担して個別処遇や新規情報を全体会議や申し送りで発信し、職員同士の情報交換・共有を強化することができた。また、下半期より本格的にケアパレット導入への取組を行い、ご利用者・家族に日常の様子を報告する連絡帳は手書きから印刷物への変更の形が整えられた。重複した転記作業もなくなり、作業効率が上がった。更に記録内容の幅を広げ生産性向上を目指す。

なお、LIFE のフィードバックについては毎月の更新入力を継続し、年度末にフィードバックを受けることができた。下表にフィードバックデータの一部を示す。

2024 年 12 月現在

	永光荘デイ	全 国
①障害高齢者の日常生活自立度（B1 以上）	29.5%	20.0%
②認知症高齢者の日常生活自立度（Ⅲa 以上）	20.0%	15.8%

①②について、永光荘デイは特養併設事業所ということもあり、全国統計と比較して重度者の利用者割合が大きいことがうかがえる。

3) 看護課

【年度目標①】 利用者の健康管理と感染症予防対策の中心的な役割を果たす。

標準予防策の徹底・利用者の状態把握から変化に気付く

(評 価) 前年度から比べ新型コロナの感染者は減少し、感染後も重症化するケースは少なかった。軽症や無症状の感染者が増え感染経路や接触者の早期発見をして、隔離・検査・受診へと繋げ、感染拡大を防ぐことができた。インフルエンザ流行期は乾燥が強かった事も影響し、居室やホールでの感染者が増えてしまった為今後の課題として環境対策を検討する。

【年度目標②】 介護課と連携・協働し、利用者の自立支援・重度化予防支援に取り組む。

(評 価) 理学療法士の指導のもと、個別のリハビリプログラムを作成した。

排泄動作や食事時の姿勢の保持、筋力維持などのリハビリを写真で分かり易くメニュー表を作成し、看護・介護間で共有して実施することができた。また、新たにペダルエクササイザー（リハビリマシーン）、ループエクササイズ（運動用ゴムバンド）を購入したことにより関節の可動域制限の緩和や、拘縮予防への取り組みも行うことができた。利用者個々の医療的課題についても各委員会でそれぞれ意見を出し合い、事故報告やヒヤリハットから問題点を挙げ、会議で再発予防対策を共有することができた。

4) 活動実施状況

①令和6年度指定居宅サービス事業所等の運営指導

令和7年2月12日に群馬県健康福祉部福祉局監査指導部より運営指導を受け、指摘事項が1件あった。内容は、個人情報の取扱いについて、重要事項説明書とともに別紙にて同意を得ることが適切であるという指摘であったため、改めて同意書別紙を作成した。その他については適正に行われている評価をいただいた。

②鬼石式筋力トレーニング

＜実利用者数 11人 開催回数 74回＞

週2回実施し1回平均8人が参加。3カ月ごとに評価を行い身体機能の数値により変化を確認する事で個々に合わせメニューの変更をしながら継続した訓練を行っている。

③年間行事

特養部と合同で渋川女子高等学校茶道部によるお茶会や小野上温泉太鼓保存会の慰問、餅つき（鏡餅づくり）を開催。その他、季節ごとの恒例行事を実施した。また、グループ活動として季節に合わせた制作活動を行い、活動風景の写真を掲示する事で雰囲気づくりを行った。

5. 付表

表1 施設整備等実施状況

項目	内容	金額	購入日・実施日
施設車輛購入	デイサービス 送迎用車両	4, 0 8 3 千円	令和6年12月17日
施設備品購入	特養 チルト車いす4台	5 4 8 千円	令和6年 6月10日
	特養 調理器具ミキサー	4 7 5 千円	令和6年 7月30日
	特養 介護記録ソフト8台分	9 6 8 千円	令和6年11月18日
	特養 チルト車いす2台	2 7 4 千円	令和6年12月11日
	ショートステイ 液晶テレビ	1 7 5 千円	令和7年 2月6日
施設備品修理	永光荘 食堂ホール屋根補修	1 0 3 千円	令和6年 5月16日
	特養 居室コンセント移設工事	4 5 4 千円	令和6年 6月14日
	特養 受水槽配管修理	1 2 1 千円	令和6年11月 8日
	特養 井戸陥没埋立て	1 1 0 千円	令和6年11月16日
	特養 誘導灯更新	4 4 0 千円	令和6年 9月18日

表2 施設外研修と会議

出席件数（延べ人数）

職種	部会・定例会・会議	一般研修	県外研修
施設長	5 (5)	1 6 (1 6)	2 (2)
特養相談員	0 (0)	2 4 (2 4)	0 (0)
特養介護支援専門員	0 (0)	2 (2)	0 (0)
特養介護職	0 (0)	7 (7)	3 (4)
特養看護職	0 (0)	3 (3)	0 (0)
特養栄養職	0 (0)	0 (0)	0 (0)
特養事務職	5 (5)	1 9 (2 1)	5 (5)
居宅ケア相談員	0 (0)	1 (1)	1 (1)
居宅ケア介護職	0 (0)	2 3 (2 4)	3 (3)
居宅ケア看護職	0 (0)	0 (0)	0 (0)

表3 会議及び委員会の実施状況

会議名	実施回数	平均出席	参加者	会議の内容
部長会議	1 2	6	施設長、(事務長) 各部 部長	各部門懸案事項の検討 方針決定、月次収支報告
課長会議	1 2	1 1	施設長、(事務長) 各部 部長・副部長・課長	各課懸案事項の審議 方針の徹底
衛生委員会	1 2	1 2	産業医、衛生管理者、施設長 各部 部長・副部長・課長	施設の安全衛生に関する こと
防災委員会	9	7	施設長、防火管理者、委員	施設防災計画、訓練、安全管理の企画点検など
生産性向上委員会	4	1 1	施設長、(事務長) 各部 部長・副部長・課長	介護サービスの質の向上 を目指すためのテクノロジーの導入・評価
食支援委員会	1 2	9	施設長、特養部部长、委員 管理栄養士、給食業者	給食に関する事項審議 行事食、処遇改善策
行事委員会	1 1	4	施設長、委員	行事の企画、反省
感染症対策委員会	1 2	1 1	施設長、(事務長) 各部 部長・副部長・課長	感染症対策の検討など
虐待防止委員会	1 2	1 2	施設長、(事務長) 各部 部長・副部長・課長 施設ケアマネ	虐待に関する懸案事項等 の確認及び検討など
入所等検討委員会	1 2	1 3	評議員、施設長、(事務長) 各部 部長・副部長・課長 施設ケアマネ	入所待機者の動向確認と グループ分けその他入所 決定についての総合的な 検討
永光荘しんぶん 委員会	4	5	委員	永光荘しんぶんの企画検 討編集、反省

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

表4 職員の配置状況

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢	勤続	人数	年齢	勤続
(常勤) 施設長	1	54	33	(1)		
(常勤) 事務員	4	37	9	(4)		
(常勤) 生活相談員	2	43	14	¹ (3)	56	17
(常勤) 介護支援専門員	1	64	23			
(常勤) 介護職員	31	35	9	8	46	16
(非常勤) 介護職員	10	44	6	1	40	6
(常勤) 看護職員	4	55	10	2	50	5
(非常勤) 看護職員	3	68	12	3	56	3
(常勤) 機能訓練指導員	(1)			(2)		
(非常勤) 機能訓練指導員				(3)		
(常勤) 管理栄養士	1	29	5	(1)		
(非常勤) 医師	(5)					
(常勤) 用務職員	2	64	20	(2)		
(非常勤) 用務職員	2	71	1	(2)		
(常勤) 合計	46	39	10	11	47	13
(非常勤) 合計	15	53	6	4	52	3

() は兼務

令和7年3月31日現在

- ・デイサービスの生活相談員3人は介護職員が兼務
- ・永光荘・デイサービスの機能訓練指導員は看護職員が兼務
- ・兼務者は合計から除外 年齢、勤続の合計は平均

表5 職員の資格取得状況

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	認定特定行為業務 (喀痰吸引) 従事者	研修 介護職員初任者	研修 認知症介護実践者	防火管理者	衛生責任者	危険物取扱者
施設長	1	1								1		
特養												
生活相談員	1	1 (1)								1 (1)		
介護支援専門員	1	1					1					
介護職員	26	1				1	8	2	1	1		
看護職員			3	4								
栄養士					1							
事務職員											1	1
用務職員												
ショートステイ												
生活相談員	1								1			
介護職員	3						1	1	2			
デイサービス												
生活相談員	1	1										
介護職員	9						3		3 (2)	2		
看護職員			2	3								
合計	43	5	5	7	1	1	13	3	7	5	1	1
前年度合計	42	6	6	10	1	1	16	8	7	4	2	2

・重複資格取得者あり。 非常勤職員含む。 令和7年3月31日現在

・（ ）は資格者所有者数のうち令和6年度試験合格者数を示す。

表6 特養部 入退居者状況

() は前年度人数

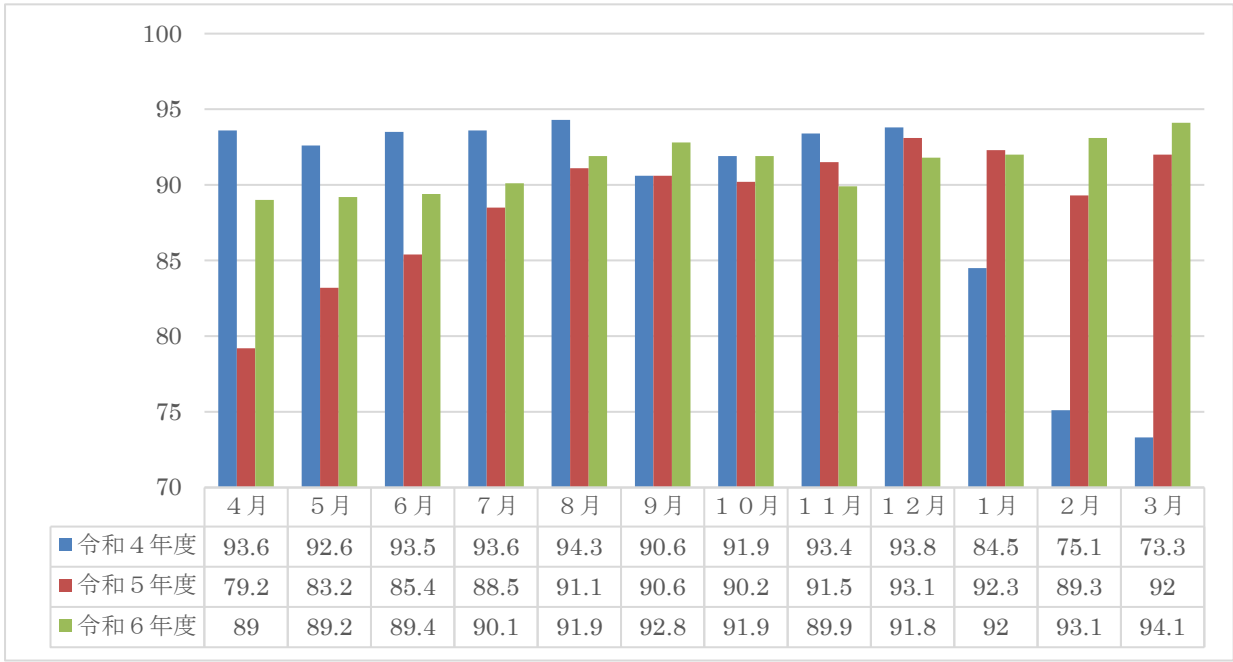
	入居者数	退居者数
男	10人(15)	13人(10)
女	29人(35)	25人(26)
合計	39人(50)	38人(36)

表7 特養部 退居者状況内訳

() は前年度人数

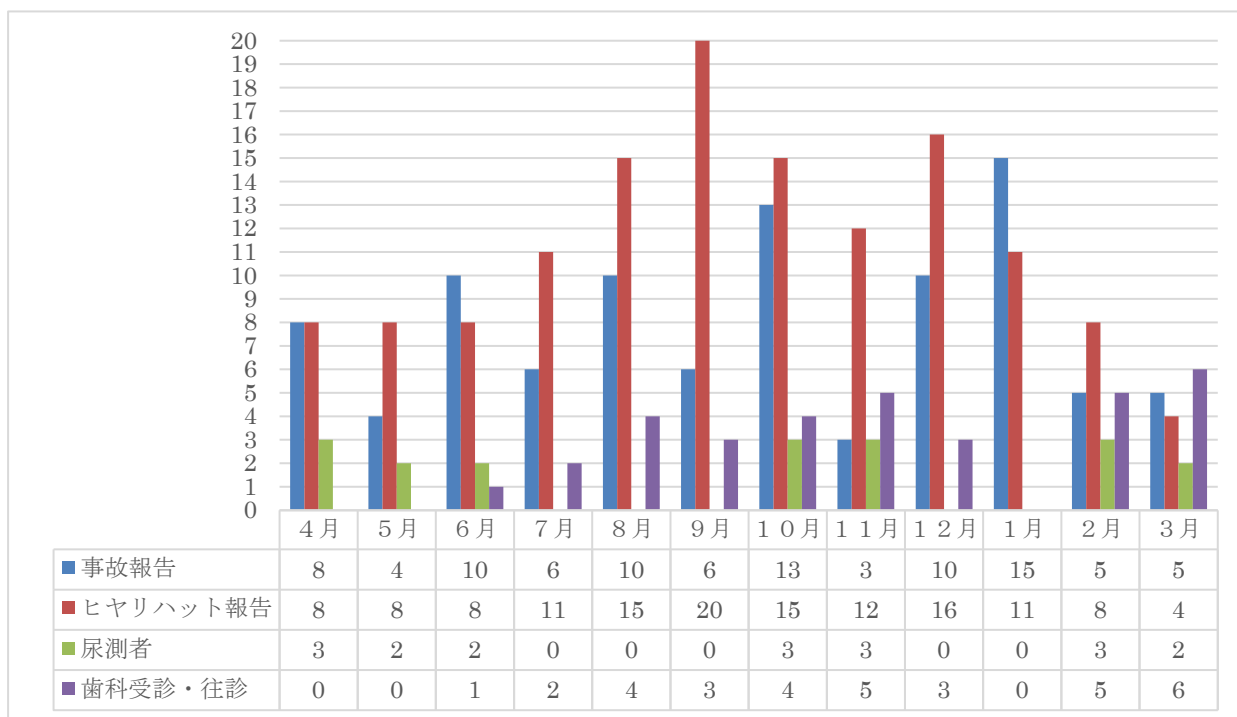
	死亡(看取)	死亡(病院)	他施設	医療機関
男	10人(7)	4人(2)	1人(0)	2人(1)
女	18人(19)	3人(4)	0人(1)	0人(2)
合計	28人(26)	7人(6)	1人(1)	2人(3)

表8 特養部 ベッド稼働率(月別推移 単位: %)



令和4年度累計・・・89.3%
令和5年度累計・・・88.9%
令和6年度累計・・・91.3%

表 9 特養部 各委員会活動報告



事故報告 95件 ヒヤリハット報告 136件
 尿測者 18人 歯科受診・往診 33件

表 10 実習受入状況

実習校名	人数	受入期間
群馬パース大学 福祉専門学校	3	令和6年 6月 4日～ 6月28日
	3	令和6年 9月10日～10月18日
	4	令和7年 1月18日～ 2月14日
	1	令和7年 2月18日～ 2月28日
吾妻中央高等学校	3	令和6年 6月 6日～ 7月18日
	3	令和6年 7月22日～ 7月26日
	4	令和6年 8月29日～12月12日
	1	令和6年12月16日～12月20日
	2	令和7年 1月 9日～ 1月23日
	2	令和7年 1月 9日～ 3月13日
	4	令和7年 3月25日～ 3月27日
前橋高等特別支援学校	1	令和6年 6月 3日～ 6月14日
青翠高等学校	2	令和6年 7月24日～ 7月26日
群馬社会福祉専門学校	1	令和6年11月18日～11月22日

表 1 1 特養部 外部研修参加状況

研修名	形 式	参加人数	研修期間
渋川摂食嚥下研究会	WEB	3	令和6年 4月 2日
甲種防火管理新規講習	会場	1	令和6年 5月 21日 22日
ND ソフトウェアほのぼの研修	WEB	3	令和6年 5月 31日
高齢者施設等の感染対策研修	会場	2	令和6年 6月 28日 9月 6日 11月 22日
介護に従事する中高年者の 「腰痛・転倒」を予防するための 講座	会場	1	令和6年 6月 29日
令和6年度生産性向上研修	会場	2	令和6年 7月 26日
渋川保健医療圏救急要請時連 絡シート等運用部会	会場	1	令和6年 8月 7日
群馬県介護就職説明会	会場	3	令和6年 8月 28日
ほのぼのシステム操作研修	施設来荘	3	令和6年 9月 6日 11月 8日 令和7年 1月 28日
国際福祉機器展	会場	4	令和6年 10月 2日
関東ブロック老人福祉施設研 究総会長野大会	会場	5	令和6年 10月 3日 4日
感染症対策研修会	会場	1	令和6年 11月 1日
災害担当企画委員会研修会	WEB	1	令和6年 12月 12日
特別養護老人ホーム施設長研 修会	会場	3	令和6年 12月 13日
渋川摂食嚥下研究会	WEB	3	令和6年 4月 2日

渋川倫理法人会モーニングセミナー各火曜日に参加

表 1 2 特養部 会議、委員会実施状況

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
特養部 全体会議	8 回	1 5 人	施設長、 生活相談員、 施設ケアマネ、 介護職員、 看護職員、 管理栄養士	懸案事項審議、コロナウイ ルス対策の周知・徹底、業 務等の報告、連絡など
サービス 担当者会議	1 2 回	7 人	施設長、 生活相談員、 施設ケアマネ、 介護職員、 看護職員、 管理栄養士	利用者ケアプランにおけ るサービス内容の検討、状 況確認、モニタリングなど
リスク マネジメント 委員会	1 2 回	7 人	施設長、 生活相談員、 施設ケアマネ、 介護職員、 看護職員、 管理栄養士	リスクマネジメント作業 委員会における現場での リスクを報告。事故発生及 び事故再発予防策の検討 など
リスク マネジメント 作業委員会	1 0 回	2 人	介護職員	事故分析、環境整備、セン サー使用状況の把握、マニ ュアル見直し、職員教育
入所等検討 委員会	1 2 回	1 3 人	評議員、施設長、 事務長、生活相談員、 施設ケアマネ、 介護職員、看護職員、 管理栄養士、 地域包括職員、 居宅ケア相談員、 居宅ケア看護職員、 居宅介護支援相談員	入所待機者の動向確認と グループ分け及び入所決 定についての総合的な検 討など
感染症予防 対策委員会	1 0 回	8 人	施設長、 生活相談員、 介護職員、 看護職員、 管理栄養士、 委託業者社員	新型コロナウイルスを主 とした感染症対策の検討 及び発生時の対処方法の 統一、感染症蔓延時におけ る B C P の検討・周知など
身体拘束適 正化委員会	1 2 回	7 人	施設長、 生活相談員、 施設ケアマネ、 介護職員、 看護職員、 管理栄養士	身体拘束に対して、緊急や むを得ず実施する場合の 留意点及び拘束解除に向 けた検討の実施など

表 1 3 ショートステイ 新規利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R6 年度	4	1	6	4	4	9	2	4	3	6	1	5	49
R5 年度	0	3	2	3	3	1	1	3	2	3	3	1	25
R4 年度	1	3	1	2	6	5	2	1	2	1	2	3	29

表 1 4 ショートステイ 月別実利用者

(単位：人)

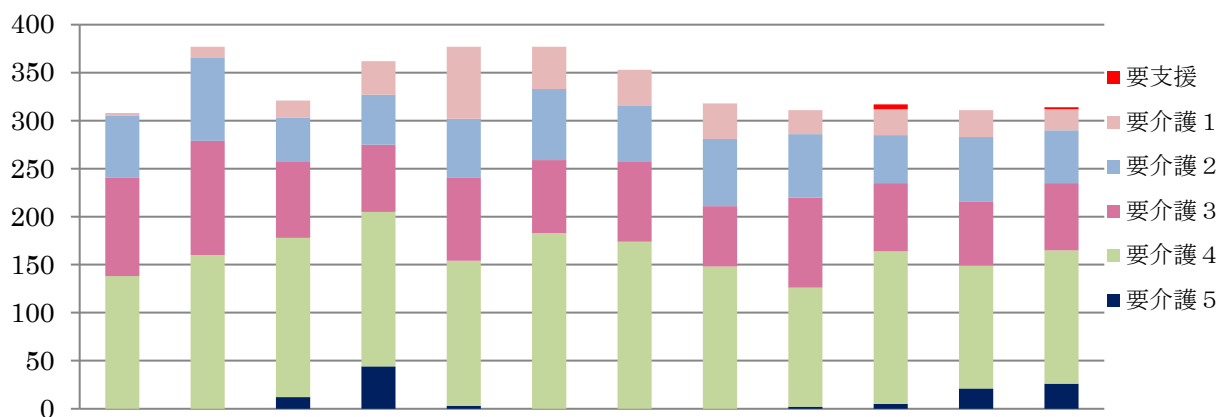
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R6 年度	23	30	26	31	30	32	31	32	28	31	26	28	348
R5 年度	28	27	28	29	29	23	25	27	27	27	23	25	318
R4 年度	30	31	30	29	31	30	31	29	29	22	27	30	349

表 1 5 ショートステイ 月間実利用者人数平均値及び延べ利用者数

年度	平 均 値	延べ利用者数
令和 6 年度	27.58人	4,058人
令和 5 年度	24.88人	3,733人
令和 4 年度	28.83人	3,673人

表 1 6 ショートステイ 延べ実績数利用者数推移

(単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	7
要介護1	3	11	18	35	75	44	37	37	25	27	28	22	362
要介護2	64	87	46	52	61	74	59	70	66	50	67	55	751
要介護3	103	119	79	70	87	76	83	63	94	71	67	70	982
要介護4	138	160	166	161	151	183	174	148	124	159	128	139	1,831
要介護5	0	0	12	44	3	0	0	0	2	5	21	26	113
合 計	308	377	321	362	377	377	353	318	311	317	311	314	4,046

表 1 7 デイサービス 新規利用者数（介護・予防計）（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R6年度	4	1	4	1	1	6	6	3	3	6	9	2	46
R5年度	2	3	1	5	1	2	9	5	1	1	2	2	34
R4年度	2	3	1	4	1	3	4	4	1	2	4	2	31

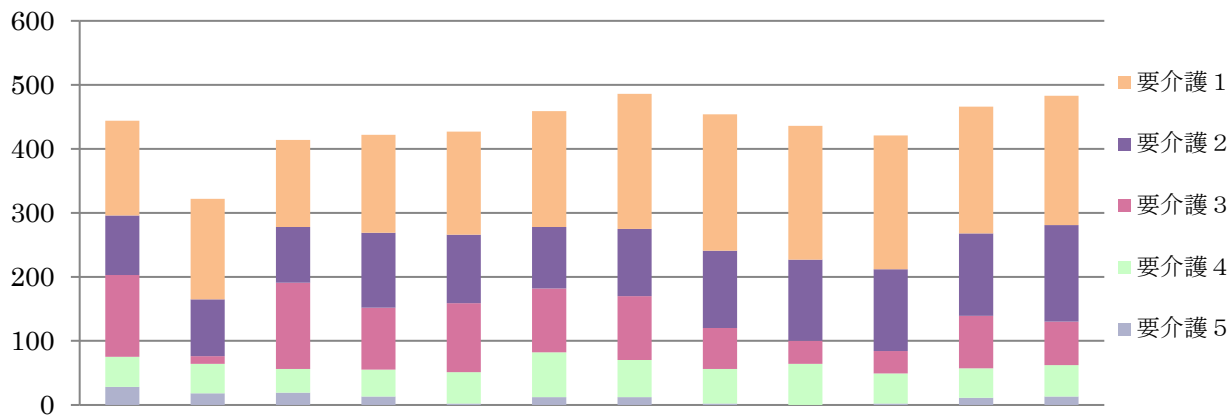
表 1 8 予防通所延べ利用者数

延べ利用者数	令和6年度	令和5年度
要支援1	204人	180人
要支援2	691人	587人
合 計	895人	767人

表 1 9 予防通所介護月別実利用者数（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援1	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	4	4	30
要支援2	6	6	7	6	6	6	6	6	6	6	7	8	76
合 計	8	8	9	8	8	8	9	9	8	8	11	12	106
R5年度	8	8	7	7	7	7	9	10	10	8	7	9	97

表 2 0 通所介護延べ実績数（単位：人）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要介護1	148	154	136	153	161	181	211	210	209	207	198	202	2,170
要介護2	92	87	87	117	107	96	105	115	122	128	129	151	1,336
要介護3	128	123	135	98	108	100	100	51	36	35	82	68	1,064
要介護4	47	41	41	42	49	69	59	54	64	47	46	49	608
要介護5	28	18	19	13	7	12	12	2	0	2	11	13	137
合 計	443	423	418	423	432	458	487	432	431	419	466	483	5,315
R5年度	517	527	492	514	513	451	431	458	475	472	429	470	5,749

表 2 1 利用者総実績数＜介護(延)総利用者数＞

	目標利用者数	実績利用者数
令和 6 年度	6, 2 5 8 人	5, 3 1 5 人
令和 5 年度	6, 9 6 0 人	5, 7 4 9 人
令和 4 年度	7, 9 0 0 人	6, 5 3 9 人

表 2 2 居宅ケア部会議実施状況一覧

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
全体会議	9 回	1 0 人	施設長 介護課長 看護係長 介護係長 看護職員 介護職員	懸案事項審議、勉強会の開催、感染症対策の周知・徹底、業務等の報告、身体拘束虐待防止研修等 8 月・2 月は感染症状況により中止
係長会議	1 2 回	5 人	施設長 看護係長 介護課長 介護係長	サービス内容の検討や実施状況の確認・委員会のとりまとめや感染症対策の検討等
事故防止委員会	1 2 回	5 人	施設長 看護係長 介護課長 介護係長	事故分析、再発防止策の検討、環境整備など
リハビリ委員会	1 2 回	5 人	施設長 看護係長 介護課長 介護係長	リハビリ実施状況の確認・個別機能訓練の取組内容の整備・管理全般など
ADL 委員会	1 2 回	5 人	施設長 看護係長 介護課長 介護係長	個別処遇のとりまとめやサービス内容の実施状況の確認・管理など

5. 設備関係整備年表

1995（平成 7）年	3月31日	スプリンクラー設備工事（社会福祉施設設備補助）完成
1999（平成 11）年	3月31日	自立浴・機械浴室統合工事（大規模修繕事業）完了
2000（平成 12）年	7月10日	厨房統合工事完了
	11月13日	居室等施設内空調機改修工事（大規模修繕事業）完了
2001（平成 13）年	3月26日	ナースコール改修工事（業務省力化設備事業）完了
	5月26日	デイルーム確保・医務室移転等事業（大規模修繕事業）完了
	10月18日	屋根改修工事業（大規模修繕事業）完了
2003（平成 15）年	5月21日	食堂ホールの空調機改修工事（中央競馬場主社会福祉財団助成）
2004（平成 16）年	1月30日	温冷配膳車導入（5台）
	8月30日	洗面台を自動センサー式に交換（4台）
	12月31日	オゾン殺菌脱臭機導入（1台）
2006（平成 18）年	6月 4日	スチームクリーナー2台導入
2008（平成 20）年	6月 8日	自立浴浴槽縁改修工事
	10月31日	給湯用ボイラー交換工事完了（1台）
2009（平成 21）年	1月31日	全自動汚物除去機交換工事完了（1台）
	4月13日	加湿空気清浄機導入（大型12台）
	6月 5日	ドクタープラス生成機導入（1台）
	9月25日	加湿空気清浄機導入（小型45台）
2010（平成 22）年	3月31日	トイレ改修工事、ナースコール・電話設備交換工事（大規模修繕事業）完了
	6月24日	多機能型居宅ケアグループ（ショートステイ・デイサービス）相談室設置工事完了
	10月 8日	職員玄関手前間仕切り用自動ロックドア設置
	10月22日	給湯用ボイラー（補助用）交換工事完了
	12月 2日	ショートステイ用個室トイレ改修工事完了
2011（平成 23）年	2月 6日	機械浴槽入替工事完了
	7月20日	用務員室クロス張替工事完了
	7月31日	職員玄関前及びリネン倉庫前舗装工事完了
	8月 4日	北側及び南側ポーチ段差解消工事完了
	8月11日	厨房屋根防水工事完了
2012（平成 24）年	3月30日	リネン庫及び職員玄関通路屋根設置工事完了
	5月15日	施設内パソコン入替工事完了
	6月 2日	調理室内空調機交換工事完了
	7月17日	北側ポーチ前駐車スペース舗装工事完了
	7月27日	駐車場用地（渋川市半田778-8外1筆）競売により取得
2012（平成 24）年	11月19日	北側新駐車場（来客用兼夜勤者用）工事完了
	12月18日	厨房内スチームコンベクション入替工事完了
	12月26日	厨房内自動食器洗浄機入替工事完了

2013（平成25）年	4月10日	調理職員用休憩室設置工事完了
	10月31日	スーパー低床介護ベッド3台導入
2014（平成26）年	5月31日	洗濯物干し場屋根・食堂東側テラス修繕工事完了
	8月31日	受水槽増設工事完了
	8月13日	西側ブロック塀（中央部）に上毛カルタを塗装
	9月30日	非常用放送設備（事務所・第2介護員室）入替工事完了
	12月25日	厨房内ガステーブル入替完了
2015（平成27）年	3月31日	建物外壁修繕工事（大規模修繕事業）完了 ぐんまちゃんの絵を塗装 北側給湯用ボイラー入替工事完了
	8月26日	西側ブロック塀（南寄り）に上毛カルタを塗装
	11月19日	高圧開閉器（PAS）・ケーブル交換工事完了
	11月30日	施設内空調機改修工事（大規模修繕事業）完了
2016（平成28）年	5月20日	カラオケ機材（JOYSOUND）導入
	5月23日	汚物除去機（洗濯室）入替工事完了
	6月3日	乾燥機・洗濯機（洗濯室）入替工事完了
	9月17日	洗濯室内改修工事完了
	12月15日	居室内給水管分岐取付工事
2017（平成29）年	1月16日	火災通報専用電話改修工事
	7月20日	浄化槽内水中ポンプ更新完了
	7月29日	調理室配管漏水修繕工事完了
	9月26日	東側擁壁補強工事完了
2018（平成30）年	1月5日	南側玄関ポーチコンクリート修繕工事
	2月1日	食堂ホールパーテーション設置工事（渋川市古巻地域包括支援センター事務所用）
	3月7日	スーパー低床介護ベッド3台導入
	5月11日	北側玄関自動ドア工事完了
	9月5日	南側受水槽ポンプ交換工事完了
	11月8日	北側受水槽ポンプ交換工事完了
	12月12日	テーブル型冷蔵庫1台 冷凍冷蔵庫1台更新
2019（平成31）年	2月20日	スーパー低床介護ベッド3台導入
2019（令和元）年	10月31日	温冷配膳車5台リースにより入替
2020（令和2）年	1月29日	スーパー低床介護ベッド7台導入
	1月31日	永光荘西側ブロック塀撤去・フェンス設置工事
	12月3日	コロナウィルス感染症対策備品（オゾン発生装置10台、顔認証温度検知システム3台、食堂間仕切り一式）導入
	12月22日	スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型）5台導入
2021（令和3年）	1月20日	Wi-Fi 設置工事
	3月3日	スーパー低床介護ベッド2台導入（ショートステイ）

		9月30日	A重油ボイラーサービスタンク修理完了
		11月17日	スーパー低床介護ベッド1台導入
2022（令和 4年）		5月24日	シャワーキャリー2台、バスタブ1台導入
		7月 4日	給湯設備更新工事
		10月24日	個室部屋ドア修理（23号室）
		10月31日	南側門扉改修工事
2023（令和 5年）		2月 1日	スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型）5台導入
		3月28日	個室部屋ドア修理（20号室～22号室）
		7月31日	浴室用自動塩素制御ユニット交換
2024（令和 6年）		3月31日	個室トイレ手摺修理（20号室～22号室）
		3月31日	スーパー低床介護ベッド（離床センサー内蔵型）7台導入（特養5台、ショートステイ2台）
		5月 日	食堂ホール屋根補修工事
		5月31日	ケアパレット用 iPad 8台導入
		6月 3日	特養居室（山の棟・鳥の棟）内コンセントボックス移動修理
		9月11日	永光荘東側敷地地盤ボーリング調査（～14日）
		月 日	特養廊下4面誘導灯2カ所 LED交換工事
		9月17日	Bluetooth 対応血圧計、体温計、オキシメーター各3台導入
		11月 6日	花の棟西側井戸陥没部分砂埋工事
		11月30日	ケアパレット8台導入
2025（令和 7年）		1月18日	節水器取付浴室シャワー他24カ所
		3月17日	防犯カメラ設置ロビー他

3. 特別養護老人ホーム清流の郷

管理部
特養部
デイサービス部

1. はじめに（総括）

令和6年度は、

「介護現場に革命を起こそう！」

（介護・看護・調理・管理が一体となって、介護の新時代を創設しよう！）

を施設方針として、一年間運営をした。以下に運営実施の総括を示す。

まず、施設方針であるが、今年度中に大きな「革命」を起こすことはできなかった。しかし、AIや介護ロボット普及等で今後訪れる介護現場の変革を見据えた、革命への礎ができた一年であった。記録の電子化はその大きな一歩であり、今まで手書きで記録していたものを、タブレットやパソコンで入力作成・管理した。まだ若干不慣れな職員がいて、現場で記録や情報共有、申し送り等で完全移行できていない部分が今後の課題として残る。また、導入した移乗サポートロボット「Hug」は数人の入居者へ実施しているが、まだ使いこなしている状況ではなく、その機能を完全に発揮させるためにはもう少し時間が必要である。フィードバックをようやく取得したLIFEはそのデータを介護支援計画やケアにまだ反映できていない。以上の状況を踏まえ、令和7年度の施設方針は引き続き「介護現場に革命を起こそう！」を継続し、今年度築き上げた革命の礎を実践に変え、そして次期中期計画へつなぐ年度と位置づけた。

次に入居者・利用者状況を示す。特養は、ベッド稼働率目標97%に対し96.1%と0.9ポイント足りなかったが、介護保険収入は令和5年度を上回り、過去5年間で一番の収入となった。これは高いベッド稼働率の維持とともに、介護報酬改定が要因のひとつといえる。短期入所（ショートステイ）は、目標83.3%に対し69.7%と大きく13.6ポイント足りなかった。令和4年度に定員数を6人から12人に増加したが、利用者数・介護保険収入ともにほぼ横ばいが続き、まだ大きな成果につながっていない。年度末から新規利用者が増えつつあるので、今後の利用者数増加に期待したい。最後に通所介護（デイサービス）は、目標6,600人に対して7,391人と大きく上回り、達成率112%となった。コロナ感染症が蔓延した令和4年度以来、利用者数は減少していたが、以前の活気を取り戻すための対策を講じた結果、右肩上がりに増加している。対策の詳細については、各部の報告書を参照されたい。

今年度は介護保険制度改正があった。大きい内容として、「医療との連携」と「介護現場における生産性向上」があげられる。清流の郷はその改正に対し、以下の取組みを実施した。

医療との連携について、2月に感染症訪問指導として渋川医療センター・感染管理特定認定看護師の方に来荘いただいた。これは感染症対策加算の必須事項になるが、指導だけでなく、新型コロナ・インフルエンザ・ノロ等の感染予防の研修会も開催いただき、多くの職員が参加し、感染症予防についての対策強化につながった。

生産性向上については、委員会を発足して毎月開催した。内容としては、

- ①整理整頓の実施：毎月の「整理整頓の日」と合わせ、定期的に実施
- ②特養・介護職員の勤務時間の変更：遅番の時間変更による身体的負担の軽減
- ③インカム・タブレット等、ICT機器の活用推進
- ④移乗サポートロボットの選定 Hugの購入準備・活用開始
- ⑤令和7年度に予定している機械浴の更新・機械浴室の変更
- ⑥入居者の衣類用洗濯機・乾燥機の更新及び洗濯室の変更
- ⑦次世代ナースコールに代わるAI機器の検討・準備

以上、多くの検討事項について議論され、まだ検討途中の内容が多いが、すでに決定して実施しているものもあり、委員会が機能していることがうかがえる。また、施設方針にある革命を起こすために、今までにないアイデアを多職種で検討する必要がある、この生産性向上委員会が中心となって、現場の改革を進めてきたといえる。

以下は、施設方針の各取組みについての評価を示す。なお、上記にすでに記述した取組みについては省略する。

・ICT化の第一段階の完成を実施する

各部署にケアシステムをインストールしたタブレットを必要個数導入し、すべての記録・申し送りを電子化した。タブレットに登載されているカメラ機能を使い、記録に画像を添付するなど、迅速かつ適切な情報共有が可能になった。紙ベースの記録からの移行期間は逆に時間がかかる状況であったが、現在は入力にも慣れて時間短縮の効果も出ている。また、会議や申し送りの議題・資料も印刷せず、パソコンやタブレット、スマホ等を活用することで、省資源にもつながっている。年度末に毎日の申し送りを全てタブレットで実施する試みをしている。まだ、慣れない部分も多く、手探り状態であるが、令和7年度中にはインカムとタブレットを活用して、職員が集合して実施する現行の申し送りからの脱却を目指したい。

記録に関しては、電子化に伴って省力化だけでなく、その重要性も随所で発信してきた。ケア実施後すぐにタブレットへ入力することで、記録の漏れやミスを最小限に抑え、それが以後のケアにつながり、リスクマネジメントにもなることへの認識を高めた一もあった。

・科学的根拠に基づく質の高いケアを多職種連携で実現する

LIFE（科学的根拠に基づくケア）については、国が新システムに移行し、こちらからの入力に関してのフィードバックが行われない時期が長く継続した。施設としては、多職種が集まる「LIFE活用委員会」を発足して毎月開催したが、各部署に入力状況を確認するのみであった。年度末にようやくフィードバックが届くようになり、データ分析も可能になったので、今後はそれを介護支援計画やケア内容に反映させていきたい。

・感染症や災害が発生しても乗り切れる施設の体力を強化する

感染症については、数人の入居者・利用者・職員に新型コロナやインフルエンザ等の感染があったが、早期の発見と対応の結果、大きなクラスターにつながることはなく、最小

限で抑えられた。年度末に感染症訪問指導と研修を受け、現対応の是非の確認ができた。来年度はそれを基に感染症BCPの見直しを行いたい。

災害BCPについては、水災害時の電力ダウンを想定した訓練を実施した。訓練で備品や消耗品の設置場所が課題となったため、見直して移動を実施した。年度内のBCP改正に至っていないため、これも来年度早急に見直したい。

・働きがいのある職場作りを目指し、職員の持つマンパワーをフルに発揮する

人事考課については、新しい規格の制度が確定せず、実施ができなかった。職員の働きがいややりがいの向上、及びキャリアアップにつなげるため、来年度は実施したい。また、特養・介護職員の遅番時間の見直しを行い、出退勤時間を1時間早める変更をして、身体的負担の軽減を行った。来年度は勤務時間について、特養・介護係だけでなく、入居者・利用者のよりよい生活や業務の効率化、職員の負担軽減等のために全部署で業務時間調査を行い、見直しを実施していきたい。

人事については、退職者は1人だけで安定した一年であった。入職した外国人労働者たちは仕事と生活ともに慣れてきている様子で大きなトラブルもなく過ごされている。来年度以降も外国人の方の就職が予定されているが、習慣や宗教、言葉等の違いによるストレスがないように配慮していきたい。

今年度の決算は、予算に対する収入や収支差額に大きな差異がなく、安定した一年であった。デイサービスは新型コロナの影響からようやく脱却した様子で、活気が戻りつつある。しかし、コロナ禍前の状況にはまだ届いておらず、最近の物価高騰の影響もあり、この施設の運営がとても厳しい状態であることに変わりはない。また、設立15年を過ぎ、設備や備品等の消耗や故障が目立ち、更新や変更を余儀なくされている。そのため、今後安定して運営していくためには、設立状況をそのまま維持していつかは無理が生じる。また、慢性的な人出不足の状況はこの先も継続されると思われ、国も介護に関わるマンパワーを最小限に抑え、代わりにAIや介護ロボットにその役割を担わせる方向にシフトしている。それらを踏まえ、清流の郷が未来に向けて安定した運営をしていくためには、職員が知恵やアイデアを出して大きな改革、現場の革命を起こす必要がある。

数十年後の未来も、清流の郷に「入居してよかった」「利用してよかった」「就労してよかった」と人々に愛される施設作りを目指すことを心に誓い、令和6年度の事業報告を締めたい。

2. 管理部

【年度目標①】利用者に『選ばれる施設』構築を目指す。

（評 価）利用者に安心して満足頂けるサービス提供をサポートするため、他部署と連携を取りながら、利用者と家族の面会準備対応や、人員が不足する部署への応援をした。

「整理整頓の日」を中心に、利用者に気持ち良くご利用頂けるよう、施設の館内館外の環境整備を実施した。

【年度目標②】職員の健康を増進する。

（評 価）大切な職員の健康を護るため、毎日のラジオ体操実施と、月次開催の衛生委員会で検討した「健康に役立つ情報」の発信や、健診結果により再検査が必要な職員への病院受診などの声かけを行った。

デイサービス全体会議に外部講師を招き、腰痛予防に関する研修会を開催し、介護業務における腰痛予防への啓発に繋げた。

【年度目標③】感染症から施設を守る。

（評 価）来館者への手指消毒や検温の徹底と、毎日定刻に施設内換気を行った。また、周辺地域や他施設の感染症情報収集に努めながら、職員間で情報を共有した。

数人の職員が新型コロナやインフルエンザに感染したが、施設内で感染の拡大は無く、一年を終えることができた。

渋川医療センターの外部講師を招き、感染症に関する訪問指導と研修会が行われ、受講した職員の感染症予防に対する啓発となった。

1) 総務係・用務係

【年度目標①】物的資源を大切に活用する。

（評 価）施設の安全性向上を目指し、設備機器の日常点検や業者保守で状況を把握しながら、故障時の対応に関し、部品や専門技術が必要な場合以外可能な限り職員が対応したが、問題なく業務の継続ができた。

年度当初に計画した、バルクガスタンクの更新をすることができた。

今年度より発足した「生産性向上委員会」を中心に、老朽化する設備機器（機械浴槽等）更新についての対応を協議した。次期中期計画を見据えながら、次年度以降も引き続き、機器導入に向け準備対応を行いたい。

【年度目標②】 災害に備える。

(評 価) 災害BCP訓練は、施設的全館停電作業時に併せてラインワークスのビデオ通信機能を活用しながら水災害の対応訓練を行い、備蓄品の収納箇所や移動方法などの点検と見直しをした。

また『永光会事故防止の日』に、インカムやラインワークスを活用して、施設から利用者が出てしまった想定で、『利用者搜索訓練』を行った。

【年度目標③】 SDGsを推進する。

(評 価) 節電を意識しながら空調を活用し、猛暑日が続いた夏季や寒かった冬季には、体感的に無理のない温度設定（広範囲で低出力運転する方法）にて、消費電力量を抑えた。

また、必要箇所の照明器具（蛍光灯）のLED化を実施した。

なお、年度目標以外の取組みとして、以下を実施した。

(1) 職員健康診断やインフルエンザ予防接種等の状況

1. 職員健康診断状況

令和6年 6月 6日 59人（全体職員健診）

令和6年12月 2日～1月20日 25人（夜勤従事職員健診）

2. インフルエンザ予防接種

令和6年11月18日と11月25日 （利用者と職員）

3. ストレスチェック実施状況

令和6年11月23日～30日 55人（週30時間以上勤務者）

(2) 施設不在者投票・期日前投票（特別養護老人ホーム利用者）

1. 第50回衆議院議員総選挙及び第26回最高裁判所裁判官国民審査

令和6年10月25日（金） 3人（期日前投票）

3. 特養部

【年度目標①】利用者ケアの向上を目指す。

(評 価) 4月より、口腔衛生管理を開始した。月に1回、訪問の歯科医師を中心に介護課・看護課・栄養課の多職種協働で、口腔の健康状態の評価と計画書の作成と見直し、日常の口腔ケアを実施した。(写真①)

2階の交流スペースを活用し、季節に合わせた飲み物の提供や体操等に参加ができる活動の場所を作った。(写真⑥・⑦)

3種類の介護リフトの試験導入を行い、利用者・職員の評価が高かったH u gを1台導入した。現在、数人の利用者に使用中で、利用者・職員ともにH u gに慣れ、残存する機能の活用や生活リズムに合わせた安全なケアの提供など、効果がみられている。(写真④)

【年度目標②】笑顔で働ける職場づくりを目指す。

(評 価) 記録用のタブレット導入により、リアルタイムで記録の入力と閲覧ができるようになった。H u gの導入により、職員の心理的・身体的負担が軽減した。(写真②・③・④)

9月には介護職員の勤務時間の見直しを行い、新しくC勤(11時～20時)を導入した。

【年度目標③】時代に求められる施設づくりを目指す。

(評 価) L I F Eは新システムへ移行することができた。3月に厚生労働省が開催したL I F Eの研修後より、P D C Aサイクルの構築に向け、フィードバックの活用を開始した。

A C P研修会に介護課・看護課・栄養課の職員で参加し、A C Pの考え方を施設内で共有することができた。

【年度目標④】ベッド稼働率97%を目指す。

(評 価) ベッド稼働率は、96.1%と目標を達成することはできなかった。

入所申込者の減少により、1ヶ月以上、入所調整に時間がかかることが多くみられた。空き情報を近隣の病院や居宅介護支援事業所に提供し、数件ではあるが入所に繋がった。

感染症では、12月24日～1月1日の間で、利用者6人・職員5人がインフルエンザに感染した。1月4日～1月5日には、新型コロナに感染した利用者が1人(インフルエンザも陽性)・職員が1人みられた。年末年始ではあったが、事前に検査キットやガウン等の必要物品を揃えていたこともあり、迅速に対応することができた。



① 口腔衛生管理



② タブレット



③ タブレット



④ Hug



⑤ 介護課会議



⑥ 活動 季節の飲み物



⑦ 活動 体操

1) 介護課

【年度目標①】介護職員の資質向上とモチベーションアップを目指す。

(評 価) 介護課会議において月に1回、介護職員に必要な知識や技術を身に付けるための研修会を実施した。(写真⑤)

LINE WORKSを活用し、ユニット・フロア・介護課で必要な情報を共有することができた。

【年度目標②】時代に求められる施設介護職員を目指す。

(評 価) 介護課会議において、接遇と認知症ケアの研修会を実施した。介護職員2人がACPの研修会に参加した。利用者との日常会話の中で、ニーズの把握や意思決定支援のサポートを少しずつではあるが、進めている。コミュニケーションの手段として、LOVOTを活用した。名前を呼んだり、頭を撫でたり、一緒に歌を唄ったりすることで、ご利用者の笑顔を引き出すことができた。

2) 看護課

【年度目標①】最新の医療・看護を現場に活用できるようにする。

(評 価) 最新の医療・看護については最新医療を学ぶ機会にはなかったが、感染症の研修に参加したことと、渋川医療センターによる訪問指導により、新型コロナについての考え方や対応の仕方が、4年前の出始めた頃と明らかに変化してきていることを学び、感染症対策の基本的対応が実践できた。それによりインフルエンザ、新型コロナ共に施設内の感染拡大を防止することができた。

【年度目標②】他部署と多職種連携を密にして、入居者・利用者により良いケアを提供する。

(評 価) 日常の看護ケア（処置など）を行っている利用者は定期的に創部の写真を撮るようにし、タブレットでの記録入力に画像を添付することで、他部署や多職種の職員と情報共有が可能となり、栄養面や活動面など多方面からアプローチすることができた。

【年度目標③】職員が働きやすい環境、長く勤められる職場作り、地域で一番の施設を目指す。

(評 価) 職員間の連携も良く、安定した環境で仕事をすることができた。利用者に笑顔であいさつを行ったことで、健康や病気の相談に関わらず、以前に増して看護職員室に来てくれることも多くなった。

3) 栄養調理課

【年度目標①】季節を感じるができる食事づくり

(評 価) 季節に合わせたイベント食を提供した。(6 2 P 付表 1 1 参照)

超キザミ、ペースト食の提供数が増えたため、食べやすく、見た目も楽しんでもいただけるよう工夫した。見た目を常食に近づけることで、摂取量が増え、残食量の減少にも繋がった。

9月昼食「敬老の日」

常菜



ムース食



1 2月昼食「忘年会」
常菜



ムース食



1 2月昼食「クリスマス」



2月おやつ「節分」



【年度目標②】 マニュアルを基本とし、事故のない安心安全な食事を提供する。

(評 価) 2月に朝食主食に豆腐のフィルムが混入する事故があった。食事介助時に介護職員が気づき取り除いた。開封する際は、フィルムを丁寧に取り除き、食品に異物が付いていないか目視にてしっかり確認することを再発防止策として周知徹底した。来年度は、異物混入の事故ゼロを目指し取組んでいく。

【年度目標③】 個人・全体のスキルアップを目指し、協力して挑戦できる環境づくり。

(評 価) 令和3年度に入職した無資格の職員1人が、調理師免許を取得した。調理職員の企画でおやつイベントを3度開催した。新メニューに挑戦することで、調理職員のモチベーションアップ、スキルアップに繋がった。既製品以上に食べやすさを追及したことにより、より多くの方に召し上がっていただくことができた。

6月「手づくりプリン」



8月シュワシュワゼリー



3月「手づくりケーキ」
常食



ムース



4. ショートステイ

【年度目標①】利用者満足度向上を目指す。

(評 価) 利用者の誕生日・誕生月に、お祝いの言葉と記念写真をプレゼントした。
編み物やおやつ作りなど、個別のニーズに合わせた活動や季節に合わせた行事を企画し実施した。(写真①)
LOVOTを通じて、利用者と職員で楽しい時間を共有することができた。(写真②)
安全で過ごしやすい個別の居室環境を作ることができた。

【年度目標②】送迎事故『ゼロ』を目指す。

(評 価) 送迎マニュアルの活用や安全運転講習会への参加とフィードバックにより、送迎職員に対する研修を実施した。送迎前後でアルコール検知器を使用し、運転者が酒気帯びでないことの確認を徹底し、送迎事故『ゼロ』を達成することができた。

【年度目標③】基本的ケアのレベルアップを目指す。

(評 価) リハビリ、栄養・食事、排泄の委員会活動に参加し、基本的ケアに必要な知識や技術を身に付けることができた。認知症ケアについては、介護課会議における研修の企画と実施やユニット会議において、振り返りの研修を行い、スキルアップすることができた。(写真③)

【年度目標④】ベッド稼働率83.3%を目指す。

(評 価) ベッド稼働率は、69.7%と目標を達成することができなかった。ショートステイから、利用者6人が特養に入所した。その空床の利用者を確保することができず、目標とするベッド稼働率を達成することができなかった。新規契約者は、23人だった。居宅介護支援事業所を中心に空床情報を提供し、8月は7人と契約を締結した。
感染症では、職員が家庭等からの感染でインフルエンザや新型コロナに感染することはみられたが、利用者に感染症が蔓延することは無かった。



①お屠蘇で乾杯



②LOVOT



③研修会

5. デイサービス部

○介護保険事業

【年度目標①】業務の効率化と環境整備を行い、安心・安全なケアを実践する。

（評 価）ケア記録用タブレットと専用ワゴン（写真①）を2台導入。当初、基本操作の理解に苦労したが、場所を選ばず、バイタルや処置、特記事項や画像データの入力ができるようになり、特に看護系の業務負担は軽減した。申し送りや業務日誌は、ペーパーレス化に至らず課題が残った。今後は、各職員の操作スキルを高め記録業務の省力化につなげていきたい。

【年度目標②】利用者・職員の満足感や達成感を実現でき、一人でも多くの利用者を獲得し安定した運営を目指す。

（評 価）4月に、館内の設備環境、一日のサービスの流れと活動の様子を画像に載せた広報紙（写真②）を作成し、居宅介護支援事業所へ発信した。また、本人、家族、ケアマネジャーの見学を受け入れ、館内を案内しながら実際の雰囲気伝えた。特に、広い館内・浴室環境・給食体制・LOVOTは好評を頂き、その後、多くの問い合わせがあり、上半期は月平均4人の新規受け入れを行った。

7月以降は、事業計画の月間目標を上回り、結果として、昨年度比1,480人増の年間7,391人の利用者数につながった。丁寧な対応やサービス内容により、新規利用者が定着したことや感染症蔓延時期に職員・利用者等関係者の感染症を予防できたことは、利用者数増の要因として評価したい。



①タブレット用ワゴン



②広報紙

【年度目標③】L I F Eのフィードバックを活用し、ケアの検討や改善をしてサービスの向上を図る。

(評 価) 新L I F Eにデータ移行し、担当看護師が入力したデータを滞りなく送信し、フィードバックを取得した。清流デイの特徴として要介1・2の割合は全国平均とほぼ同様だが、年齢90歳以上の割合は全国値29.4%に対して38.7%と高く、元気な高齢者が多い事業所と分析できる。今年度取組んできた、散歩コースの活用による利用者の下肢筋力維持の効果を実証するため、今後もフィードバックを活用していきたい。

1) 介護係

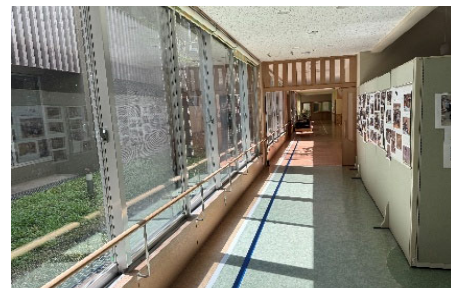
【年度目標①】利用者のやりがいや楽しみのあるサービスを提供する。

(評 価) 手芸パッチワークは、季節の作品づくりに取組み、担当職員の個展を見学したり年間通して充実した活動ができた。作品はデイホールに展示し、広報紙や法人HPへ掲載した。

館内フロアに能力に合わせた150mと60mの2コースの散歩コースを開設した。個別の取組み状況を把握するため、利用者が見てわかりやすい散歩ノートやすごろくMAPを作成した。また、コースの所々にイベント写真を掲示し、環境だけでなく、気持ちも明るくなるよう工夫した。歩行距離の上位2人を忘年会で表彰した。この散歩の習慣は、午後のレクリエーションやリハビリと合わせて、利用者の活動量増加につながった。また、季節行事や食事イベントは参加の呼びかけを徹底して、常に定員40人に迫る利用数であった。



担当職員とパッチワークメンバー



散歩コース



イベント写真の掲示

【年度目標②】安全運転の励行、交通法規の厳守。事故を「ゼロ」にする。

（評 価）運転前後のアルコールチェックを励行。運転技術向上を目的として、職員 2 人が安全運転者講習に参加し、ワゴンリフトカーの運転ができるようになった。しかし施設玄関前で自損事故が 2 件発生してしまい、事故ゼロは達成できなかった。また、送迎車の予定外のメンテナンスや修理が多く、理由としては、車両の老朽化があげられる。安全な送迎サービスを実施していくため、来年度以降に順次車両の更新を検討していきたい。

【年度目標③】地域社会と交流を持ち「清流の郷デイサービスセンター」を知って頂く。

（評 価）活動写真等を掲載した広報紙を作成し、市内の居宅介護支援事業所に配布した。

7 月にパース大学福祉専門学校実習生を受け入れた。

8 月のイベントで、社協ボランティアに慰問をお願いし「南京玉すだれ」を披露していただいた。

2) 看護係

【年度目標①】利用者の健康管理と感染予防を徹底する。

（評 価）健康管理については、既往歴・薬剤情報等を共有し個別のアセスメントを行った。また、定時の検温を行い、発熱者等体調の異変にいち早く気付けるよう努めた。感染症については、まず看護処置を行う際一手技一手洗い（消毒）を行い、各テーブルに手指消毒用ボトルを設置し、マスクの着用・手洗い・うがい・手指消毒等の標準予防策を徹底した。利用者が触れる箇所は、感染症蔓延防止のため毎日消毒を実施した。感染症流行時期に、家族へ感染症予防のお知らせを配布し、家族の協力を得て、早期受診と自宅療養を依頼した。結果、利用中のインフルエンザや新型コロナ等の感染発生を防ぐことができた。

【年度目標②】利用者の筋力低下を予防する。

（評 価）月 1 回来館する PT から、利用者のニーズやライフスタイルに沿ったリハビリ指導を受け、それをもとに日常的にリハビリ活動を実施した。散歩コースを歩行訓練として活用し、利用者が自主的に歩けるよう工夫した。

○予防介護支援

【年度目標①】 利用者の意向を尊重し、在宅生活が送れるためのサービスを提供する。

(評 価) 安心して入浴できることと、適度なリハビリ・レクリエーションで、他者と交流しながら身体を動かすことが在宅生活継続につながっている。利用中に看護師に健康相談ができるから安心と話す方も多い。定期的なイベントにも積極的に声をかけ参加いただき、ストレス解消になっている。散歩コースの参加率は100%で、積極的に歩行練習ができている。今後は、個別の目標を設定して参加する意欲向上につなげていきたい。

【年度目標②】 月平均実利用者数「12人以上」を確保する。

(評 価) 新規の受け入れもあったが、要介護認定を受けた方が上回り、結果として、月平均10人と目標を達成することはできなかった。
利用者の7割が独居であり、変化が見られた際は、家族やケアマネジャーと情報を共有し対応を協議した。要介護になってもサービスは継続できしており、本人はもちろん家族やケアマネジャーとの信頼関係を築けている。

6. 付表

表1 施設整備等実施状況

項 目	内 容	備 考
修 繕	特養 2階中央棟空調修理	令和6年 6月完了 197千円
更 新	デイ 利用者トイレ照明LED工事	令和6年 6月完了 181千円
修 繕	施設 機械浴ストレッチャー修理	令和6年 7月完了 141千円
修 繕	デイ デイフロア空調修理	令和6年 8月完了 154千円
更 新	特養 ユニットリビング冷蔵庫更新	令和6年 8月納品 105千円
修 繕	施設 2階共有部等空調修理	令和6年 9月完了 380千円
更 新	施設 バルクガスタンク更新作業	令和6年10月完了 2,255千円
修 繕	施設 1階共有部空調修繕	令和6年12月完了 136千円
更 新	特養 居室自動水栓温水器更新	令和7年 1月納品 165千円
更 新	デイ あかぎの湯照明LED工事	令和7年 1月完了 870千円
修 繕	特養 2階交流ホール空調修理	令和7年 2月完了 134千円
更 新	特養 吸引器パワーキャリー更新	令和7年 2月納品 154千円
購 入	特養 移乗サポートロボHUG購入	令和7年 2月納品 860千円
更 新	特養 居室自動水栓温水器更新	令和7年 3月納品 165千円
増 設	施設 Wi-Fi 中継局増設工事	令和7年 3月完了 1,276千円

表2 施設外研修と会議

出席件数（延べ人数）

職 種	部会・定例会・会議	一般研修
施設長	14（14）	10（10）
相談員（特養・デイ）	1（1）	8（10）
介護職員（特養・デイ）	0（0）	16（29）
看護職員（特養・デイ）	2（2）	12（21）
栄養調理・管理部職員	1（1）	9（9）

※研修や会議は、WEBリモート開催等を含む。

※運営会議と管理部会議、編集委員会は、法人開催により上記に含まない。

※年度上期実施のモーニングセミナーは、一般研修を含む。

表 3 会議の実施状況

会議名	実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
法人運営会議	1 2	4	理事長、業務執行理事、事務長、	法人各事業の運営・管理及び法人懸案事項の決定
部長会議	8	4	施設長、生活相談員、管理部長	施設各事業の運営・管理及び施設懸案事項の決定
代表者会議	1 1	8	理事長、施設長、生活相談員、ケアマネ、看護課長、栄養士、管理部長	各部門懸案事項の審議、方針の徹底等
生産性向上委員会	1 1	8	施設長、生産性向上委員	業務や施設設備等に関する懸案事項の協議・検討
衛生委員会	1 1	8	施設長、衛生委員、産業医	労務の安全性と職員の健康保持促進の検討・啓発
リスクマネジメント委員会	1 2	8	施設長、リスクマネジメント委員	事故分析、環境整備、マニュアル見直し
感染症対策委員会	1 2	8	施設長、感染症対策委員	感染症に対する対策について協議・検討
入所等検討委員会	6	1 0	施設長、特養相談員、第三者委員、ケアマネ、介護・看護職員、栄養士	施設利用待機者の入所順序を審議・検討
サービス担当者会議	1 2	9	施設長、ケアマネ、特養相談員、特養介護・看護職員、栄養士	利用者ケアプラン作成、モニタリングなど
褥瘡対策委員会	1 2	9	施設長、特養相談員、ケアマネ、特養介護・看護職員、栄養士	褥瘡予防、対応方法の検討、マニュアルの見直し
L I F E活用委員会	1 2	9	施設長、特養相談員、ケアマネ、特養介護・看護職員、栄養士	L I F Eを活用したケア等に関する協議・検討
ユニットリーダー会議	1 2	8	施設長、特養相談員、ケアマネ、ユニットリーダー	ユニット介護サービス懸案事項の協議・検討
特養介護課会議	1 0	1 5	施設長、特養相談員、特養介護職員	介護サービス懸案事項の協議・研修
デイサービス全体会議	1 1	1 2	施設長、デイ相談員、デイ介護職員、デイ看護職員	デイサービス懸案事項の協議・研修
栄養調理課会議	8	6	施設長、栄養士、調理職員	栄養調理課内の諸事項の協議・研修
看護課会議	4	6	施設長、特養部看護職員	看護業務に関する懸案事項等の協議・研修
排泄委員会	1 2	6	施設長、特養相談員、排泄委員、メーカーアドバイザー	排泄介助のための協議・検討と実施、反省
栄養・食事委員会	1 1	8	施設長、特養相談員、栄養士、栄養委員、食事委員	給食や食事に関する事項審議、行事食、食事介助
防災管理委員会	1 2	6	施設長、防災委員、訓練参加職員、訓練立会消防署員	防災計画、訓練実施と反省、月次安全管理と点検

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

※「生産性向上委員会」と「L I F E活用委員会」は今年度より発足し月次開催。

表 4 職員の配置状況

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢 (平均)	勤続 (平均)	人数	年齢 (平均)	勤続 (平均)
施設長	1	59	8.0	(1)		
事務職員	2	61	17.0	(2)		
生活相談員	1	47	17.0	1	46	1.0
				(4)		
介護支援専門員	(3)					
介護職員	18	43	5.8	7	48	8.5
(非常勤)	10	44	7.3	1	80	16.0
看護職員	5	44	5.8	3	51	8.9
(非常勤)						
機能訓練指導員						
(非常勤)	1	53	17.0	1	31	4.0
栄養士	1	32	5.3	(1)		
調理職員	5	40	9.3	(5)		
(非常勤)						
医師						
(非常勤)	2	66	16.2			
清掃洗濯職員	1	62	1.0	(1)		
(非常勤)	3	55	10.4	(3)		
合計 常勤	34	48.5	8.7	10	48.3	6.1
合計 (非常勤)	16	54.5	12.7	2	56.0	10.0

() は兼務

令和 7 年 3 月 31 日現在

・特養介護支援専門員は、介護職員が兼務

・デイ生活相談員は、デイ介護職員が兼務

兼務者は合計から外す

年齢、勤続の合計は平均

表 5 職員の資格取得状況

		社会福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	調理師	認定特定行為業務者 (喀痰吸引)従事者	介護職員基礎研修
特 養	生活相談員	1	1	1							
	介護職員		27	2						22	4
	看護職員				3	2					
デ イ	生活相談員		1	1							
	介護職員		5			1				2	
	看護職員				1	2					
栄 養	栄養士							1			
	調理職員							1	4		
令和 6 年度 合計		1	34	4	4	5	0	2	4	24	4
令和 5 年度 合計		1	34	7	4	5	0	2	3	24	4

重複資格取得者あり

令和 7 年 3 月 3 1 日現在

表6 特養 入退所状況

	実利用者数	入所者数	退所者数
男	14人(11)	6人(4)	1人(3)
女	50人(54)	8人(11)	15人(11)
合計	64人(65)	14人(15)	16人(14)

()内は、前年度の人数。

表7 入所者内訳

	病院	老人保健施設	在宅	有料老人ホーム
男	3人	0人	2人	0人
女	0人	2人	5人	1人
合計	3人	2人	7人	1人

在宅の7人の内、6人は清流の郷ショートステイからの入所。

表8 退所者内訳

	死亡	長期入院	在宅復帰	その他
男	1人	0人	0人	0人
女	15人	0人	0人	0人
合計	16人	0人	0人	0人

死亡16人の内、15人は清流の郷で死亡。1人は、入院先の医療機関で死亡。

表9 市町村別（介護保険者）入所状況

渋川市	沼田市	中之条町	昭和村	前橋市	桶川市
53人	1人	2人	1人	1人	1人

表10 給食数

(単位：食)

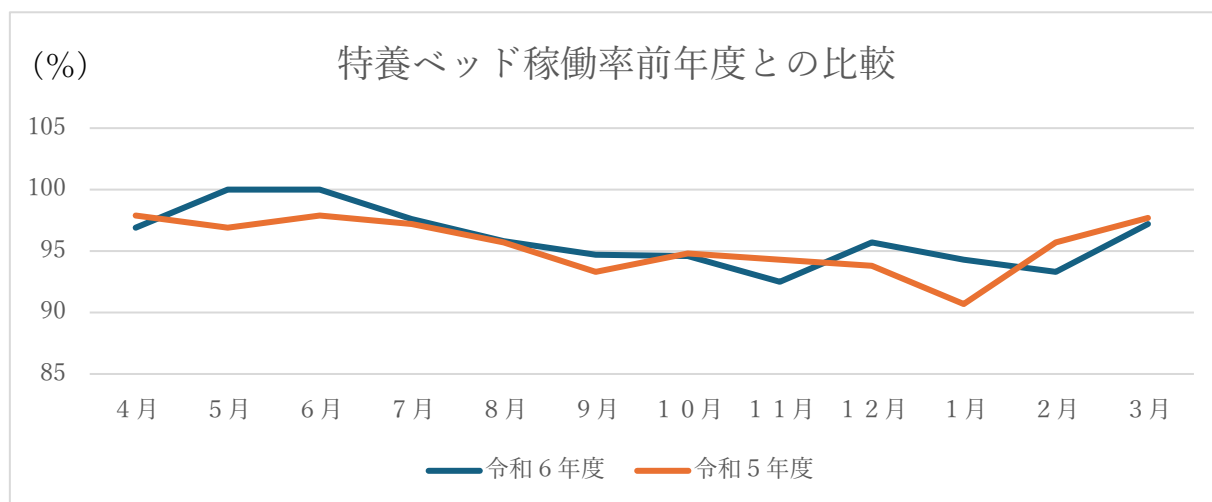
	一日平均食数	年間合計
特養利用者	142	51,780
ショートステイ利用者	22	8,067
デイサービス利用者	23	8,353
特養職員（夜勤等勤務者）	4	1,460
合計	191	69,660

表 1 1 行事食

日 付	行 事 名	食 事	食 事 内 容
5月 6日	端午の節句 お茶会	おやつ	・ 柏餅、柏餅風和菓子、スベラカーゼ餅、抹茶
7月 7日	七夕	昼食	・ 七夕そうめん、星形フルーツ、他
24日	土用の丑	おやつ 昼食	・ 和菓子、水ようかん、抹茶 ・ うなぎちらし、すまし汁、他
8月 1日	釜の口開け	おやつ	・ 饅頭
12日	お盆	おやつ	・ おはぎ
9月 9日	重陽の節句	昼食	・ 栗御飯
16日	敬老の日	昼食 おやつ	・ 赤飯、豚角煮、天ぷら、他 ・ 和菓子、ジュース
12月 6日	忘年会	昼食	・ 舞茸御飯、刺身、豚角煮、エビチリ、和菓子、等
21日	冬至	昼食	・ かぼちゃ御飯、他
20日	デイ忘年会	昼食	・ お好み丼、茶碗蒸し、等
24日	クリスマス	昼食 おやつ	・ クリームシチュー、星形フルーツ、他 ・ クリスマスケーキ、シャンメリー
27日	餅つき	おやつ	・ おしるこ、おろし、きな粉、他
31日	大晦日	夕食	・ 年越しそば、天ぷら(えび・かき揚げ)、他
1月 1日	新年祝賀会	昼食	・ ぶり照り焼き、豚角煮、紅白なます、黒豆、雑煮、栗きんとん、きんぴら、紅白蒲鉾、昆布巻、みかん、伊達巻、里芋煮、他
7日	七草粥	朝食	・ 七草粥風、他
13日	初釜	おやつ	・ おしるこ、抹茶
2月 2日	節分	おやつ	・ 鬼プリン
3月 3日	ひなまつり	昼食	・ ちらし寿司、さくらもち風デザート、等
20日	お彼岸	おやつ	・ ぼたもち

・ 毎月 1 日は赤飯提供

表 1 2 特養ベッド稼働率（月別）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和6年度	96.9	100	100	97.6	95.8	94.7	94.6	92.5	95.7	94.3	93.3	97.2	96.1
令和5年度	97.9	96.9	97.9	97.2	95.7	93.3	94.8	94.3	93.8	90.7	95.7	97.7	95.5

表 1 3 特養 月別 入院者推移

実入院者数	4人	延入院者数	4人
延入院日数	34日	一人平均入院日数	8.5日
最長入院日数	15日	最小入院日数	1日

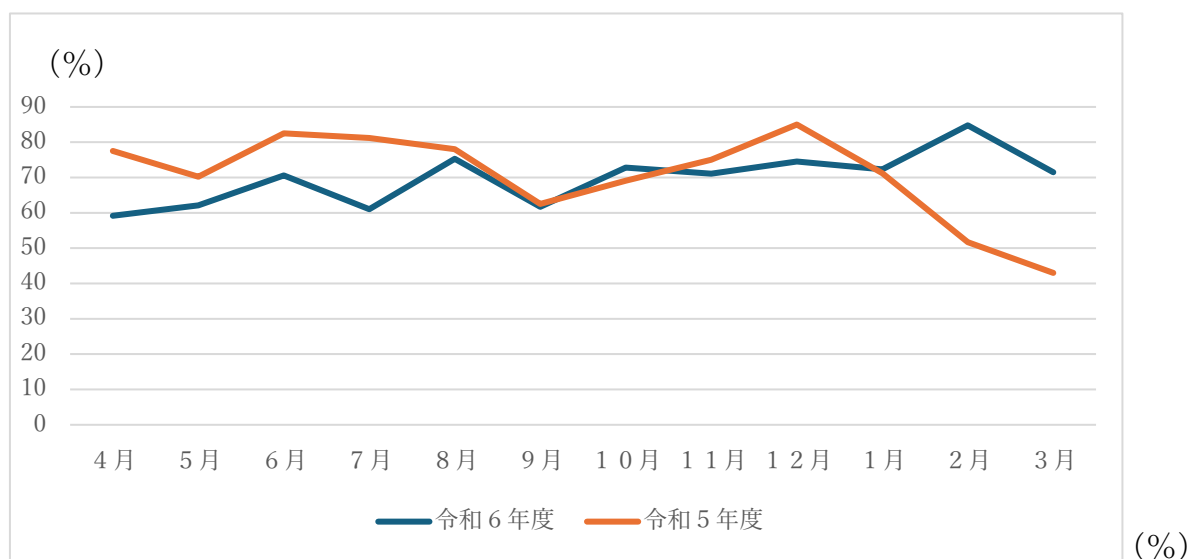
表 1 4 特養 月別 実入院者数と延入院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実入院者数(人)	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
延入院日数(日)	15	0	0	15	0	0	0	3	1	0	0	0

表 1 5 特養 令和6年度実習生受入れ

実習校名	実人数	延人数	備考
渋川北中学校	1人	3人	職場体験学習
赤城北中学校	3人	9人	職場体験学習
さくらカルチャーセンター	2人	4人	介護職員初任者養成研修
吾妻中央高等学校	2人	6人	1年生介護実習
吾妻中央高等学校	2人	36人	2年生介護実習
群馬パース大学福祉専門学校	2人	24人	I—(2)

表 1 6 ショートステイベッド稼働率前年度との比較



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
令和 6 年度	59.2	62.1	70.6	61.0	75.3	61.7	72.8	71.1	74.5	72.3	84.8	71.5	69.7
令和 5 年度	77.5	70.2	82.5	81.2	78.0	62.5	69.1	75.0	85.0	71.2	51.7	43.0	70.6

表 1 7 ショートステイ 月別 実利用者数と延べ利用者数 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実利用者数	19	20	25	20	27	26	30	29	25	25	24	22	292
延べ利用者数	213	231	254	227	280	222	271	256	277	269	285	266	3051

表 1 8 通所介護 延べ利用者数・目標達成率 (人)

	開館日数	延べ利用者数	一日平均利用者数 (目標数)	目標達成率
令和元年度	366日	9,020	24.6 (24.5)	100.4%
令和2年度	365日	7,940	21.9 (24.5)	89.4%
令和3年度	365日	7,963	21.8 (22.7)	95.9%
令和4年度	354日	6,520	17.9 (23.0)	77.6%
令和5年度	366日	5,911	16.2 (20.8)	77.8%
令和6年度	365日	7,391	20.2 (18.1)	112.0%

※令和4年度 7月(2日間)・8月(9日間)の計11日間、コロナ感染のため休館

表 1 9 通所介護 新規利用者数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	6	4	3	3	3	3	2	1	4	2	0	36

表 2 0 通所介護 要介護度別利用者推移 (人)

	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合 計
令和元年度	3,315 36.75%	3,132 34.72%	1,220 13.53%	506 5.61%	847 9.39%	9,020 100.00%
令和2年度	3,105 39.11%	2,425 30.54%	1,417 17.85%	506 6.37%	487 6.13%	7,940 100.00%
令和3年度	2,865 35.98%	2,602 32.68%	1,238 15.55%	779 9.78%	479 6.01%	7,963 100.00%
令和4年度	1,864 28.59%	2,418 37.09%	1,041 15.97%	681 10.44%	516 7.91%	6,520 100.00%
令和5年度	2,139 36.19%	1,670 28.25%	1,003 16.97%	476 8.05%	623 10.54%	5,911 100.00%
令和6年度	2,657 35.95%	2,332 31.55%	1,093 14.79%	340 4.60%	969 13.11%	7,391 100.00%

表 2 1 日常生活支援総合事業 月別利用状況 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和6 年度計	令和5 年度計	令和4 年度計
開館日数 (日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	366	354
実利用者数 (人)	11	11	10	9	9	8	9	10	10	10	11	11	—	—	—
延べ利用者数 (人)	73	78	68	71	66	60	69	68	70	62	67	79	831	791	1,091

表 2 2 通所介護年間行事

実施月	行 事 名	行 事 内 容	職 員 研 修
4 月	花 見	外出企画は実施せず、送迎時に桜の名所を巡回した。	全 体 会 議
5 月	中 華 バイキング	バイキング形式でラーメン・餃子・炒飯を提供した。	全 体 会 議 安全運転研修
6 月			全 体 会 議 入浴研修
7 月	七 夕	短冊に願い事を書き笹飾り作成。笹飾りの前で写真撮影を行った。	全 体 会 議
	うなぎ バイキング	土用の丑の日にうなぎ食を提供した。	第 1 回身体拘束等適正化研修
8 月	デイ祭り	遊戯露店を設置、昼食は鮎の塩焼き弁当を提供。ボランティア慰問「南京玉すだれ」にサマージャンボくじ	全 体 会 議
9 月	十 五 夜	お月見だんごづくり	全 体 会 議
1 0 月	十 三 夜	お月見だんごづくり	全 体 会 議 腰痛予防講習
1 1 月	パッチワーク展	外部での開催は中止。作った作品をデイホールに展示。作品と一緒に写真撮影。	全 体 会 議 第 2 回身体拘束等適正化研修
1 2 月	忘 年 会	ノンアルコールビールで乾杯。宴会食を提供した。余興はビンゴ大会	全 体 会 議
	餅 つ き	デイ利用者・職員による餅つきを実施した。	
1 月	祝 賀 会	施設長の新年あいさつとお屠蘇で乾杯。調理課特製おせちを提供した。	全 体 会 議
	初 詣	清流神社へ初詣。破魔矢に絵馬、福引きおみくじを行った。	
2 月	節 分	交流ホールで巳年利用者に絆を着用していただき福豆まきを実施した。	感 染 症 に よ り 全体会議は中止
3 月	寿 司 バイキング	調理課の協力で、生寿司を提供。ホールに特設寿司カウンターを設置。	全 体 会 議

*イベント浴

5 月は「菖蒲湯」、1 2 月は「柚子湯」を実施した。

4. 居宅介護支援事業所永光荘

1) 総 括

令和6年度は、常勤職員3人、非常勤職員2人の計5人体制で事業運営を開始したが、12月より非常勤職員1人が常勤職員へ異動となった。

これにより、特定事業所加算ⅢからⅡへ、上位加算への変更となり更なる担当件数の増加を目標に取組んだ。年度実績においては、目標達成が出来ず件数の増加に伸び悩む結果となった。

【年度目標①】 担当月間利用者件数 年度末170件（介護150件、予防20件）
年間延べ件数 1,841件（1,601件（介護）240件（予防））

（評 価）＜月間＞利用者件数 年度末149件（介護117件、予防32件）

＜年間＞延べ件数 1,620件（介護：1,310件、予防：310件）

月平均 135件（介護：109件、予防26件）

新規受入 79件（介護：60件、予防19件）

支援終了 44件（介護：35件、予防：9件）

新規利用者の受入れ状況については引き続き各医療機関や地域包括支援センターからの依頼に加え、過去に支援を行った利用者家族からの新たな依頼など幅広い依頼の受入れが行えた。一方で支援終了の原因として、介護保険施設への入居や永眠される方が多数みられた。

加算状況としては、特定事業所加算の取得以外にも入院・退院に関わる各種加算が確実に取得できるよう、医療機関との連携強化に努めた。

【年度目標②】 ケアプランデータ連携システムの導入・活用。

（評 価） 令和5年度より周辺事業所の情報収集に努めた結果、令和6年度は複数の他事業所と導入に向けた話し合いを進めた。令和7年3月には渋川市介護保険課主催による研修会にも参加した。年度内に導入に繋がる動きを具体的に進めることは出来なかったが、令和7年度内での正式導入に向けて準備を進めている。また、業務効率化に向けた取組みとしてこのシステム以外にもICT化に向けた情報収集等を積極的に行い、業務効率化を図れるよう実践していきたい。

【年度目標③】 各種研修への積極的参加。

（評 価） 各職員が年度初めに設定した研修計画を基に受講。毎年実施される他事業所との合同事例検討会は今年度1回の開催で、全員で参加した。この研修では担当事業所の職員が事例発表を行い支援に関する検討が行われ、自己研鑽の場として大変有意義な時間となった。

また、渋川市介護支援専門員研修では、依頼を受け管理者が事例発表者として研修に参加した。その中で多くのケアマネジャーの意見を聴き、学びを深めることができた。

その他、資格更新研修やブラッシュアップのための研修など、積極的な参加に努めた。

【年度目標④】フレックスタイム制度の正式導入。

(評 価) この制度は令和5年に試行、令和6年度に正式導入となった。各職員の業務量や生活事情に合わせて活用することができ、働きやすい職場環境を整えることに繋がり年度を通して利用が定着した。令和7年度以降も継続して活用していきたい。

【年度目標⑤】新型コロナウイルス感染症等の動向に応じた柔軟な利用者支援。

(評 価) 令和6年度については、爆発的な蔓延はみられずも、1年を通して断続的に各家庭や事業所より陽性者が出たとの話を耳にする1年であった。一部サービス事業所では、流行による制限もあり対応に追われた。ケースによっては、それが起因となり入院となるものもあった。事業所が休止となる事への対応と、罹患後に状態が変化(低下)し新たな調整が必要となる方への対応など、突発的な対応が複数件あり担当者以外でもフォローを行いながら、事業所全体でその都度の調整にあたった。

2) 付表

表1 要介護度別利用状況

単位：人

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和6年度	446	423	223	157	61	1,310
令和5年度	405	356	229	181	38	1,209

表2 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	39	38	41	41	42	43	45	41	40	45	46	46	507
女	62	59	60	65	68	67	72	72	68	70	69	71	803
合計	101	97	101	106	110	110	117	113	108	115	115	117	1,310
令和5年度	96	97	98	99	99	101	101	105	104	105	100	104	1,209

表3 介護予防 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	5	6	6	6	6	6	7	8	7	6	8	11	82
女	15	22	22	18	17	18	19	19	18	19	20	21	228
合計	20	28	28	24	23	24	26	27	25	25	28	32	310
令和5年度	21	23	20	24	25	25	24	24	25	21	21	21	274

表4 合同（5事業所）事例検討会実施状況

実施日	実施場所	事例検討内容
令和6年7月12日(金) 13:30～	渋川市社会福祉協議会 子持支所 会議室	事例提供事業所ケアマネが課題を感じているケース事例を検討する (事例提供：渋川市社協ケアプランセンター)

※上記1回、全職員にて参加。

5. 渋川市古巻地域包括支援センター (指定介護予防支援事業所事業計画を含む)

1) 総 括

渋川市古巻地域包括支援センター（以下、古巻包括）は、渋川市の事業委託を受け、委託期間3期（令和6年～8年度）の初年度、通算7年目の運営となった。

古巻地域において、通所リハビリ、訪問看護、居宅介護支援事業所を運営する事業所が閉所され、利用者の利用サービス変更に伴う相談や担当する介護支援専門員の支援を要する時期が一時的に増加した。

虐待ケースや支援困難ケースは常に流動的で、時にケース対応が重複し繁多な時期があるが、印象的な事例としては、包括支援センターが5年余り支援してきた方が警察で保護され、施設入所へ至るまでの支援をした。また、精神科病院へ措置入院していた方が治療を経て任意入院、在宅生活へ戻るにあたり、病院からの依頼により関係機関が集まるカンファレンスへ参加し、在宅生活を開始してからも地域ケア会議開催の必要性があると判断し、地域ケア会議を開催した。

地域に根差す社会福祉法人永光会が運営する古巻包括として、高齢者がその人らしく在宅生活が送れるよう、関係機関と連携を図りながら支援活動を行っていくことを大切に考えてそれぞれ対応した。

（1）周知活動業務

新型コロナやインフルエンザの感染予防に注意を払いながら（媒体とならない・施設内に持ち込まない）、独居者宅訪問を含む地域の高齢者や各関係機関等に向けて、引き続き古巻包括及びその母体である社会福祉法人永光会の周知を行った。

また、周知方法として「古巻地域包括支援センターたより」を発行（年3回）し、地域に向けて情報発信した。

（2）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 <表1・表2>

地域の高齢者が住み慣れた場所で暮らすことができるよう、介護サービスを利用していても心配なケースについては、同行訪問や関係機関へのつなぎ・仲介等を含め担当の居宅介護支援事業所ケアマネジャーに対する後方支援を行った。

また、介護予防支援業務を委託している市内外の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して、予防プランの内容チェックや要介護認定者を含めケアマネジメントに関する質問・相談等の支援を行った。

なお、昨年度に引き続き、古巻地域にある居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員を対象に3月に渋川市消費生活センターの所長による消費者被害についての講話と介護支援専門員の交流会を開催した。

（3）総合相談支援業務 <表3>

地域で生活する高齢者等に関する多種多様な相談を受け、その内容によって必要・適切と考えられる各種専門機関や制度・サービス等へのつなぎや紹介を行った。

多くの問題を抱える高齢者に対しては、医療・福祉・生活面で切れ目のないサービス提供が図られるよう関係者と連携・調整し在宅生活継続の支援を行った。

民生委員の定例会出席（計11回）にて、関与いただいた事例を通した報告等を行い、顔の見える関係性の構築に努めた。令和6年度についても地区担当民生委員から新規で15件の相談があり、その都度情報の共有や連携を図り対応を行った。

また、認知症による徘徊・迷い人や虐待発生の早期発見等、高齢者の安全確保に努めるべく、市の高齢者等あんしん見守りネットワーク事業に関して、新たに2店

舗と協賛登録事業所の契約を交わした。

介護保険での担当ケアマネジャーとしての動きも含めた3職種合計の延べ対応件数としては年間で、2,758件であった。(相談内訳として、電話：1,579件・来所：208件・訪問：836件・その他：135件)

(4) 権利擁護事業

高齢者の権利擁護に関する活動に対応した。

高齢者虐待(疑いも含む)の案件では、前年度からの継続対応中のものが11件あり、新規の通報は2件。高齢者虐待対応マニュアルに沿って対応を行い、1件は虐待扱いとしないと判断され、もう1件は状況の変化により安全の確認を行い、終結の判断がなされた。

状況確認のための情報収集に伴う訪問や電話等で合計41回の対応を行った。

消費者被害・特殊詐欺等の対応はなかった。渋川市消費生活センターとの連携や渋川市・群馬県警からの配信メールによる情報をもとに、詐欺(未遂)内容について把握し、民生委員の定例会出席時での周知や訪問時等に高齢者へ注意喚起を行った。

(5) 介護予防教室・家族介護教室

古巻地区の住民を対象として、7月に「夏の食中毒を知ろう」と題し介護予防教室を実施した。(古巻公民館にて)

また、古巻地区の住民を対象として、2月に福祉用具をテーマに、ダスキン株式会社の協力をいただき、実際に福祉用具(置き型手すり、ポータブルトイレ、車いす、浴用椅子)に触れて知る機会を持つ家族介護教室を実施した。

(6) 地域ケア会議の開催

精神病院から在宅生活に戻った方について、地域の方の不安を軽減させ、何か心配なことが生じた場合には情報を頂く関係を構築する目的として保健福祉事務所の精神担当保健師にも助言を求め、地域ケア会議の開催をした。それぞれの役割分担を知り、地域との繋がりの一歩になったと感じた。

自立支援型地域ケア会議を9月に1回開催した。住み慣れた地域で、健康意欲を損なうことなく、自立意欲を持って継続して生活を送るにはどのように支えられるか、ケアマネ・病院理学療法士・管理栄養士・ヘルパー・歯科衛生士・薬剤師・生活支援コーディネーターらと検討を行った。2事例の検討を行い、今後の支援にすぐに活かすことができる助言を多角的にいただくことができた。

(7) 在宅医療・介護連携推進業務

退院に伴う在宅復帰支援を含め利用者の状態や生活状況の変化に応じて、その都度適切と思われる介護サービス等の提供がなされるよう医療機関・介護サービス事業所との連携調整を行った。

(8) 生活支援体制整備事業

古巻地区地域助け合い活動推進協議体に構成員として、会議に参加した。

地域の課題を表出し、ハロウィーンイベントとして、子どもが高齢者宅を訪問する行事や有馬会館にて居場所作りと題した行事への参画をした。

(9) 認知症総合支援事業

一般市民を対象に認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に関する理解と普及啓発を行った。その結果、関係者や受講者に対し新たに古巻包括及び社会福祉法人永光会の周知が図れた。(古巻公民館にて開催)

また、渋川市が主催する「小学生のための認知症まなびの講座」のスタッフ員として実施に協力した。(市内7小学校へ訪問)

その他の取組みとしては、高齢者に対し渋川市の「認知症あんしんガイド」を配布し理解と啓発に努めた。なお、徘徊高齢者等事前登録の新規申請支援は2件で渋川警察署担当課と連携を図っている。

3) 介護予防ケアマネジメント事業

総合事業対象者及び要支援認定者に対して、自立支援と住み慣れた地域での生活の継続に向けて、介護保険を始めとしその他各種フォーマル・インフォーマルなサービス利用が行えるよう支援を行った。

4) 災害発生時の対応

地域の高齢者等に併設の特別養護老人ホーム永光荘が「福祉避難所」として位置づけられていることを周知し、2月には特別養護老人ホーム主催の模擬避難訓練に参加した。

引き続き古巻地区自主防災組織のメンバーとも情報の共有を図り、災害発生時には行政や特別養護老人ホーム永光荘と支援の連携を図って行くこととする。

なお、直持ちケースの利用者連絡一覧を作成し、パソコンが使用できない場合の緊急時に備えた。

5) 委託の在り方の検討

令和6年度については中央包括から業務マニュアル一部改訂が示され、報告書式等に変化が生じた。また、新たに「認知症の方の本人からの声」を集める事業が追加された。

今年度、地域包括支援センター看護師の入替があった。そのため、事業開催の内容の変更や日時変更は生じたが、各委託包括と業務内容に関する情報の共有や課題に対する共通認識を図り、適宜中央包括や市役所担当課に確認・助言を求め、事業を展開した。

6) 付表

表1 予防プラン月別件数

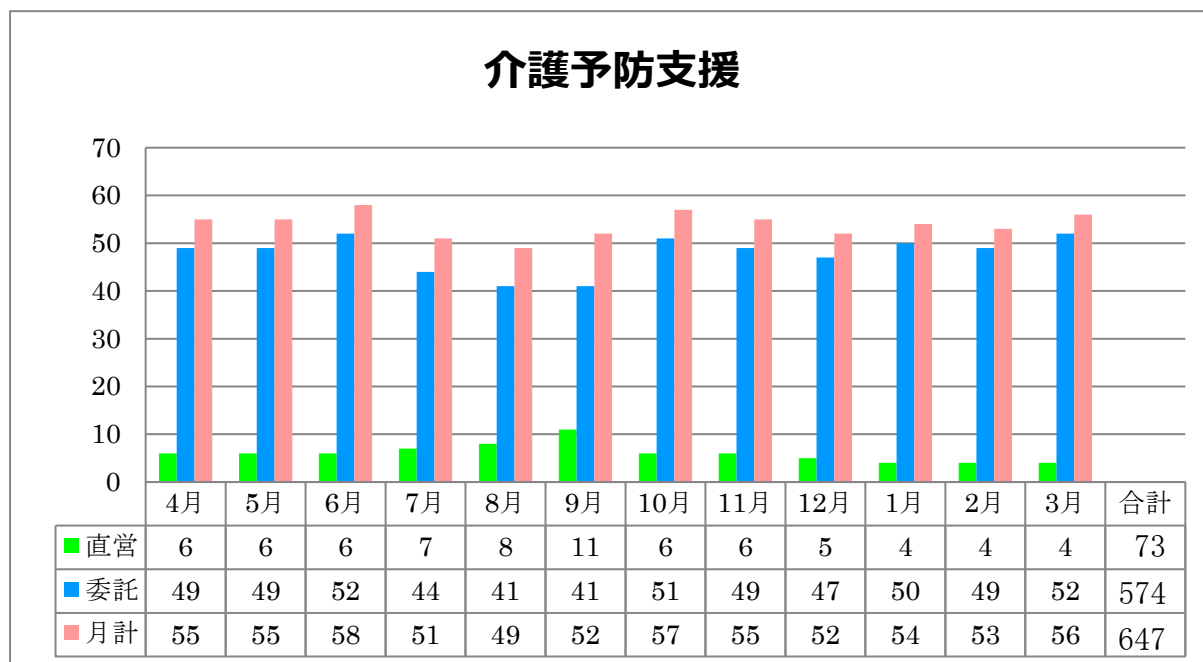


表2 総合事業プラン等月別件数

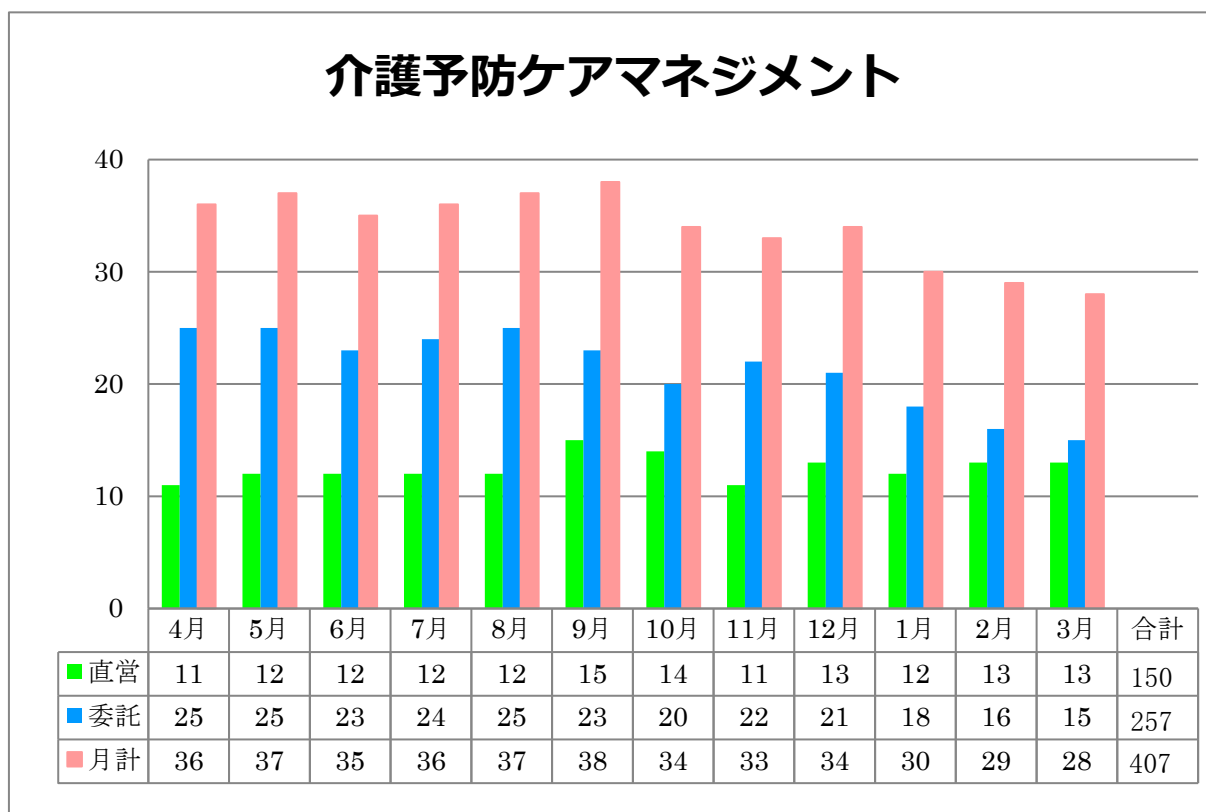


表 3 総合相談支援業務

